第３期南風原町子ども・子育て支援事業計画策定に係る
ニーズ調査結果について

●回収率

前回　就学前：４２．７％　　小学校：７７．１％（就学前、小学校は学校を通じて配布回収）

今回　就学前：４５．０％　　小学校：５３．６％（就学前は郵送、小学校は学校を通じて配布回収）

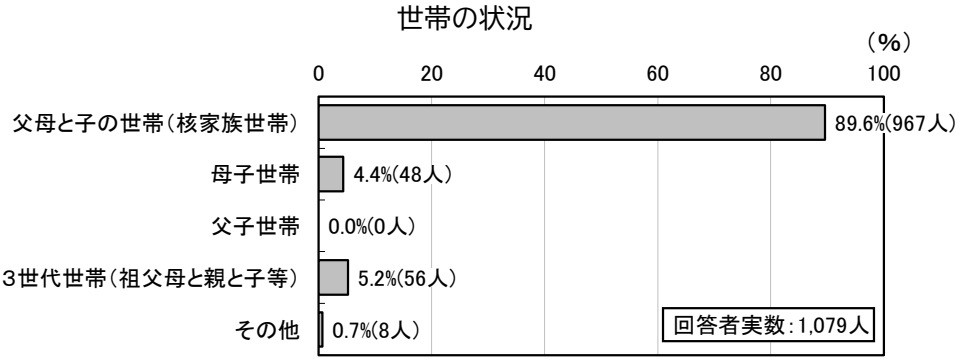
（うち web 回答 14.5%）　（うち web 回答 18.0%）

●調査結果より抜粋

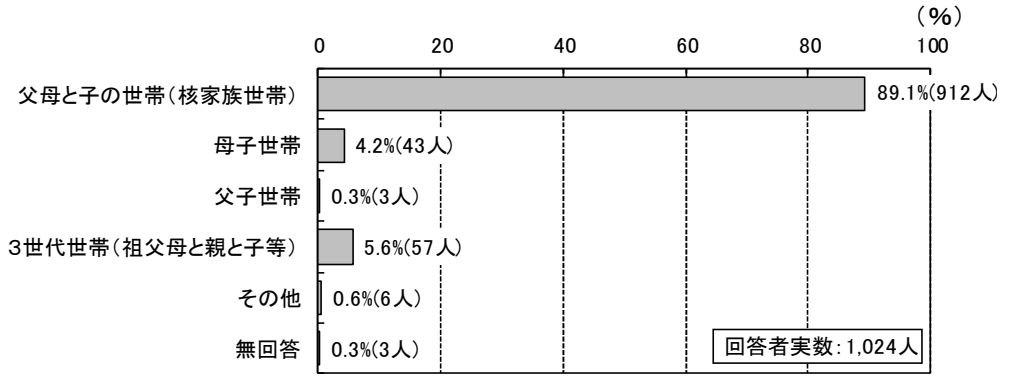
１．子育て家庭の状況について

(1)世帯の状況

「核家族世帯」が 89.6%と全体のほぼ９割を占めている。「３世代世帯」は 5.2%、「母子世帯」は 4.4%となっている。家族構成は、前回調査時と大きな差はない。



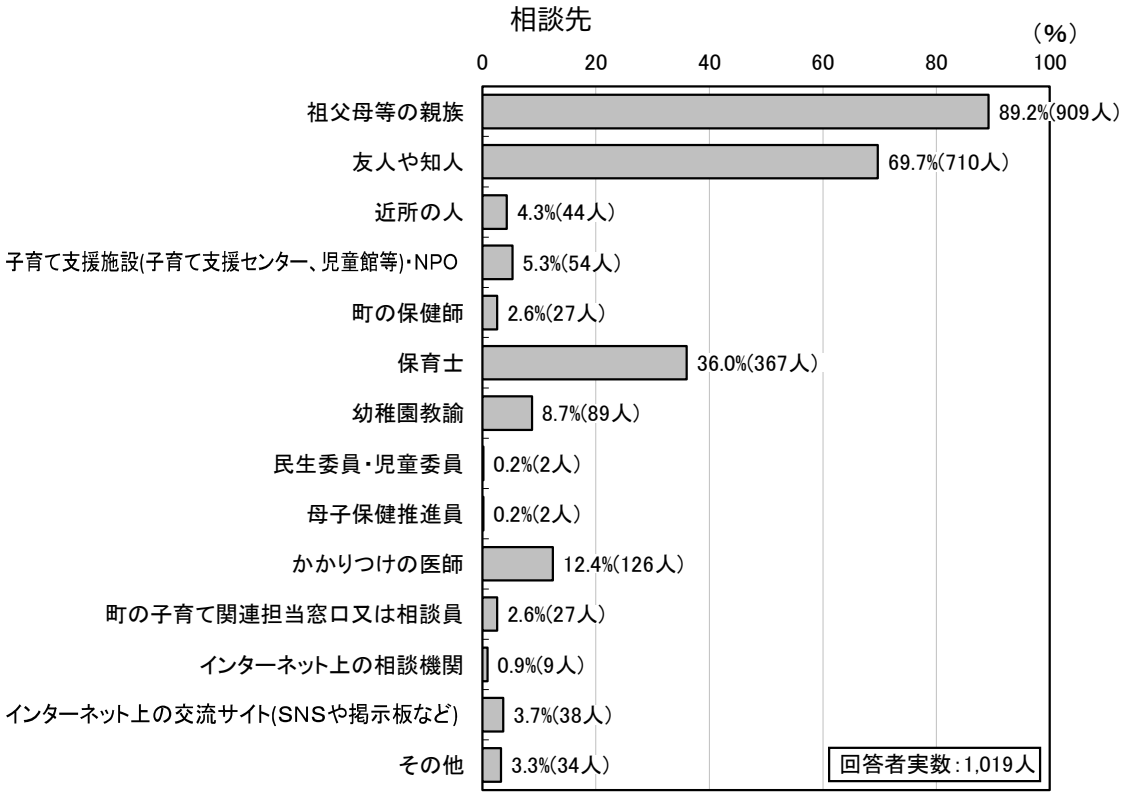
（前回）



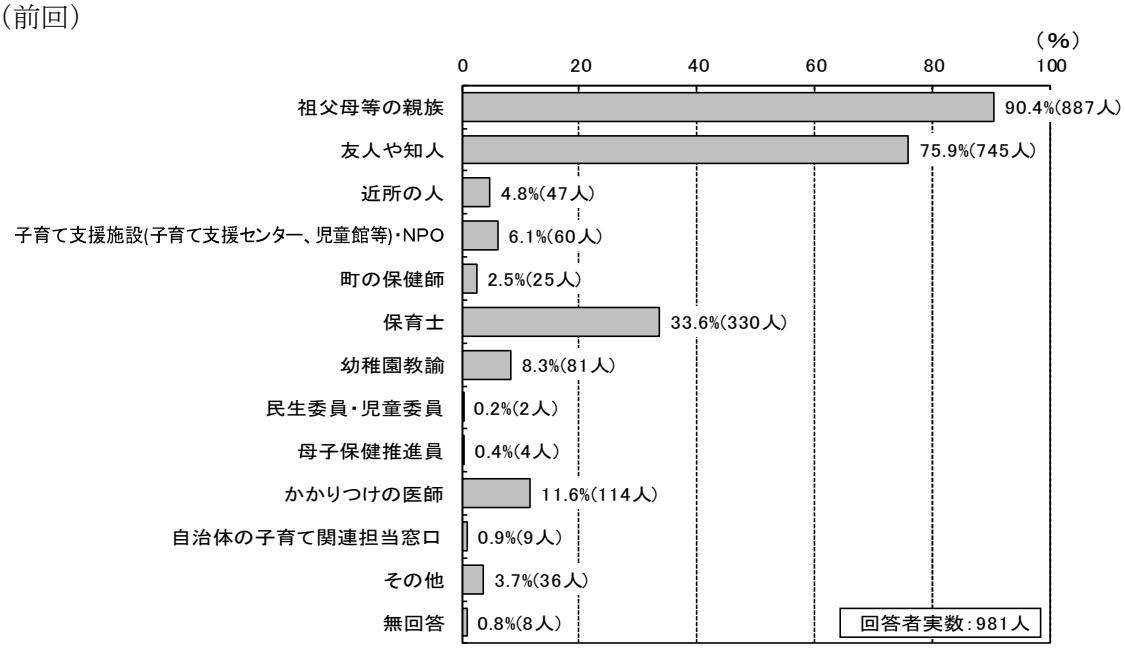
(2)相談先

相談先としては、身近な人への相談がとても高い。また、保育士への相談がやや高い傾向にある。専門的な相談先（「町の子育て関連担当窓口又は相談員」など）の利用は低い。

調査結果は、前回調査時と大きな差はないが、「町の子育て関連担当窓口又は相談員」は、前回の 0.9%が今回は 2.6%に上昇している。



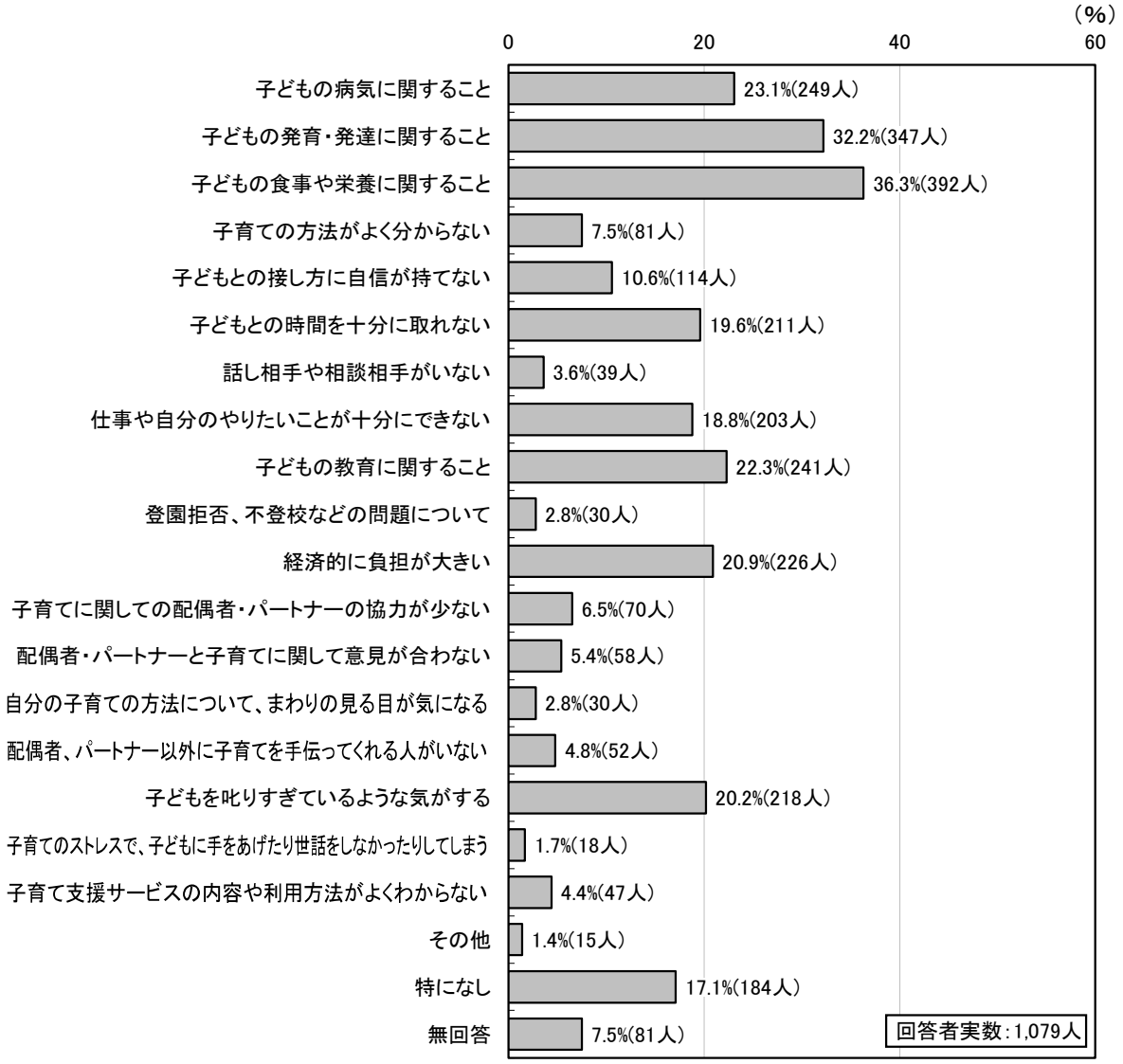
（前回）



(3)悩み事、困っていることの内容

「食事・栄養」、「発達・発育」といった、子どもの体のことについての悩み・困りごとが多い。また、「子どもの病気」、「こどもの教育」、「経済的負担」、「叱り過ぎてはいないかという不安」といった悩みも比較的高く見られる。

悩み事、困っていることの内容



悩み事、・困りごとを子どもの年齢別にみると、年齢が低い子を持つ保護者の方では、「食事・栄養」についての悩み・困りごとが多い。2歳以上になると、「子どもの教育」、3歳以上になると、「叱り過ぎているような気がする」が多くなっている。

子どもの年齢別　悩み事、困っていることの内容

	回答者実数	子どもの病気に関すること	子どもの発育・発達に関すること	子どもの食事や栄養に関すること	子育ての方法がよく分からない	子どもとの接し方に自信が持てない	子どもとの時間を十分に取れない	話し相手や相談相手がいない	仕事や自分のやりたいことが十分にできない	子どもの教育に関すること	登園拒否、不登校などの問題について	経済的に負担が大きい
0歳児	169 人	27.8% (47 人)	33.1% (56 人)	40.2% (68 人)	11.2% (19 人)	8.9% (15 人)	7.7% (13 人)	8.3% (14 人)	18.3% (31 人)	18.9% (32 人)	1.8% (3 人)	15.4% (26 人)
1歳児	159 人	32.1% (51 人)	29.6% (47 人)	44.7% (71 人)	5.7% (9 人)	6.9% (11 人)	17.6% (28 人)	1.9% (3 人)	23.9% (38 人)	15.7% (25 人)	0.0% (0 人)	21.4% (34 人)
2歳児	159 人	20.8% (33 人)	30.8% (49 人)	40.9% (65 人)	8.8% (14 人)	8.2% (13 人)	22.6% (36 人)	4.4% (7 人)	22.0% (35 人)	23.9% (38 人)	0.6% (1 人)	18.9% (30 人)
3歳児	181 人	24.3% (44 人)	39.2% (71 人)	38.7% (70 人)	7.2% (13 人)	14.4% (26 人)	23.2% (42 人)	4.4% (8 人)	20.4% (37 人)	24.9% (45 人)	2.8% (5 人)	27.6% (50 人)
4歳児	192 人	16.7% (32 人)	32.8% (63 人)	32.3% (62 人)	8.3% (16 人)	14.1% (27 人)	25.0% (48 人)	2.6% (5 人)	18.2% (35 人)	24.5% (47 人)	6.8% (13 人)	21.9% (42 人)
5歳児	180 人	17.8% (32 人)	26.7% (48 人)	25.6% (46 人)	4.4% (8 人)	8.9% (16 人)	21.7% (39 人)	0.6% (1 人)	11.7% (21 人)	23.9% (43 人)	3.3% (6 人)	20.6% (37 人)
6歳児	29 人	20.7% (6 人)	34.5% (10 人)	17.2% (5 人)	6.9% (2 人)	20.7% (6 人)	17.2% (5 人)	3.4% (1 人)	10.3% (3 人)	27.6% (8 人)	6.9% (2 人)	13.8% (4 人)

	回答者実数	子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない	配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない	自分の子育ての方法について、まわりの見る目が気になる	配偶者、パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいない	子どもを叱りすぎているような気がする	子育てのストレスで、子どもに手をあげたり世話をしなかったりしてしまう	子育て支援サービスの内容や利用方法がよくわからない	その他	特になし	無回答
0歳児	169 人	7.7% (13 人)	3.6% (6 人)	5.3% (9 人)	4.7% (8 人)	6.5% (11 人)	0.6% (1 人)	9.5% (16 人)	1.2% (2 人)	20.7% (35 人)	6.5% (11 人)
1歳児	159 人	4.4% (7 人)	5.7% (9 人)	0.6% (1 人)	3.1% (5 人)	11.3% (18 人)	0.0% (0 人)	3.1% (5 人)	0.6% (1 人)	16.4% (26 人)	7.5% (12 人)
2歳児	159 人	6.9% (11 人)	3.8% (6 人)	2.5% (4 人)	5.7% (9 人)	17.6% (28 人)	4.4% (7 人)	5.0% (8 人)	1.9% (3 人)	17.0% (27 人)	9.4% (15 人)
3歳児	181 人	7.2% (13 人)	8.3% (15 人)	3.9% (7 人)	6.1% (11 人)	26.5% (48 人)	2.2% (4 人)	2.8% (5 人)	1.1% (2 人)	12.7% (23 人)	6.6% (12 人)
4歳児	192 人	7.8% (15 人)	7.3% (14 人)	2.6% (5 人)	4.7% (9 人)	32.3% (62 人)	1.6% (3 人)	3.6% (7 人)	0.5% (1 人)	18.8% (36 人)	4.2% (8 人)
5歳児	180 人	6.1% (11 人)	3.9% (7 人)	1.7% (3 人)	3.3% (6 人)	23.3% (42 人)	1.7% (3 人)	1.7% (3 人)	3.3% (6 人)	18.3% (33 人)	10.0% (18 人)
6歳児	29 人	0.0% (0 人)	3.4% (1 人)	3.4% (1 人)	10.3% (3 人)	31.0% (9 人)	0.0% (0 人)	10.3% (3 人)	0.0% (0 人)	6.9% (2 人)	17.2% (5 人)

保育施設の利用有無別に悩み事・困りごとをみると、利用していない保護者の方で、「発育・発達」、「食事・栄養」、「地域の子育てサービスの内容」等が高くなっている。

保育施設を利用している保護者では、「子どもとの時間が取れない」、「叱り過ぎているような気がする」、「経済的負担」が多く、保育施設の利用有無によって、抱えている悩みや困りごとに違いが見られる。

相談や保護者支援においては、こういった点を踏まえた対応が必要である。

教育・保育サービスの利用有無別　悩み事、困っていることの内容

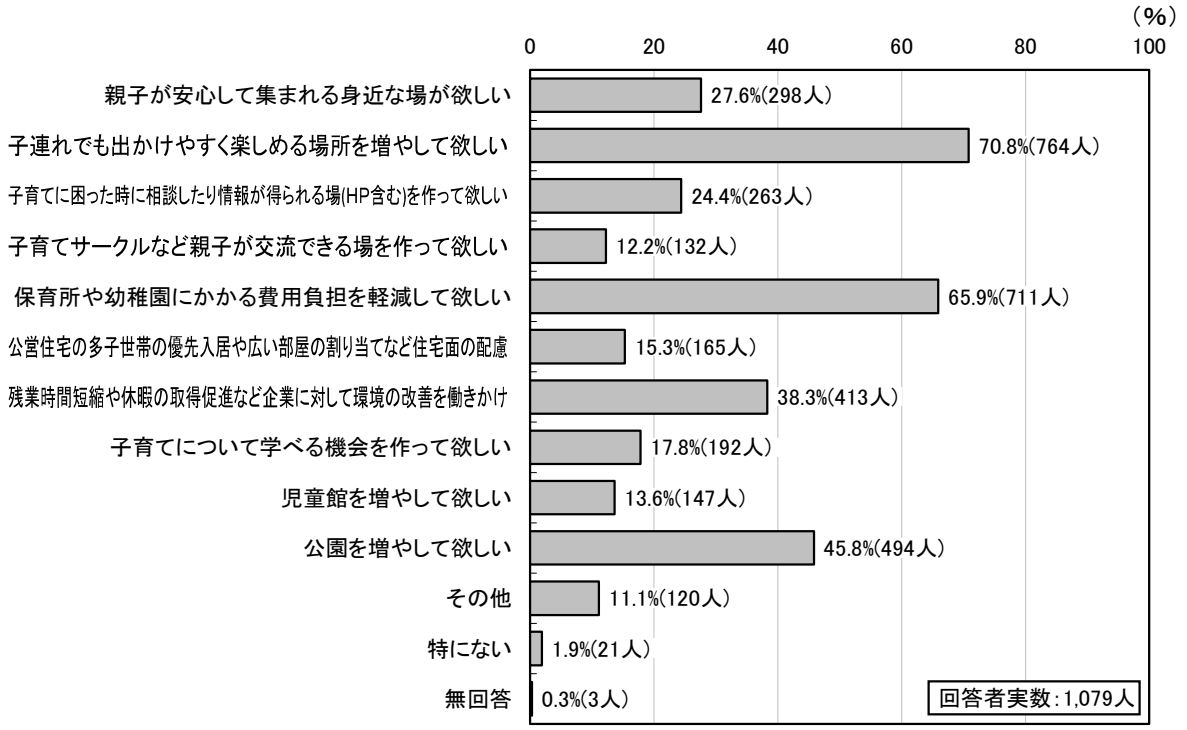
	回答者実数	子どもの病気に関すること	子どもの発育・発達に関すること	子どもの食事や栄養に関すること	子育ての方法がよく分からない	子どもとの接し方に自信が持てない	子どもとの時間を十分に取れない	話し相手や相談相手がいない	仕事や自分のやりたいことが十分にできない	子どもの教育に関すること	登園拒否、不登校などの問題について	経済的に負担が大きい
利用している	912人	23.1% (211人)	31.0% (283人)	35.6% (325人)	7.2% (66人)	10.5% (96人)	22.0% (201人)	3.1% (28人)	19.2% (175人)	22.6% (206人)	3.0% (27人)	22.3% (203人)
利用していない	166人	22.3% (37人)	38.0% (63人)	39.8% (66人)	9.0% (15人)	10.8% (18人)	6.0% (10人)	6.6% (11人)	16.9% (28人)	21.1% (35人)	1.8% (3人)	13.9% (23人)

	回答者実数	子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない	配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない	自分の子育ての方法について、まわりの見る目が気になる	配偶者、パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいない	子どもを叱りすぎているような気がする	子育てのストレスで、子どもに手をあげたり世話をしなかったりしてしまう	子育て支援サービスの内容や利用方法がよくわからない	その他	特になし	無回答
利用している	912人	6.3% (57人)	5.5% (50人)	2.3% (21人)	4.4% (40人)	22.7% (207人)	1.9% (17人)	3.2% (29人)	1.4% (13人)	16.4% (150人)	7.5% (68人)
利用していない	166人	7.8% (13人)	4.8% (8人)	5.4% (9人)	7.2% (12人)	6.6% (11人)	0.6% (1人)	10.8% (18人)	1.2% (2人)	20.5% (34人)	7.8% (13人)

(4)充実してほしい子育て支援の内容

就学前の保護者が求める子育て支援としては、「子連れで出かけられる場所」、「保育所や幼稚園に係る費用負担軽減」が７割前後を占め、特に高い。また、「公園を増やしてほしい」も４割半ばあり、3 番目に高くなっている。

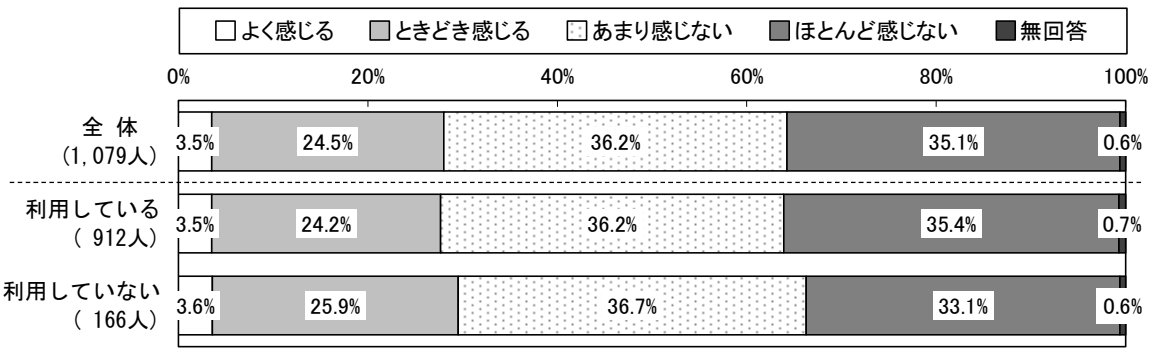
充実してほしい子育て支援の内容



(5)孤独を感じるとき

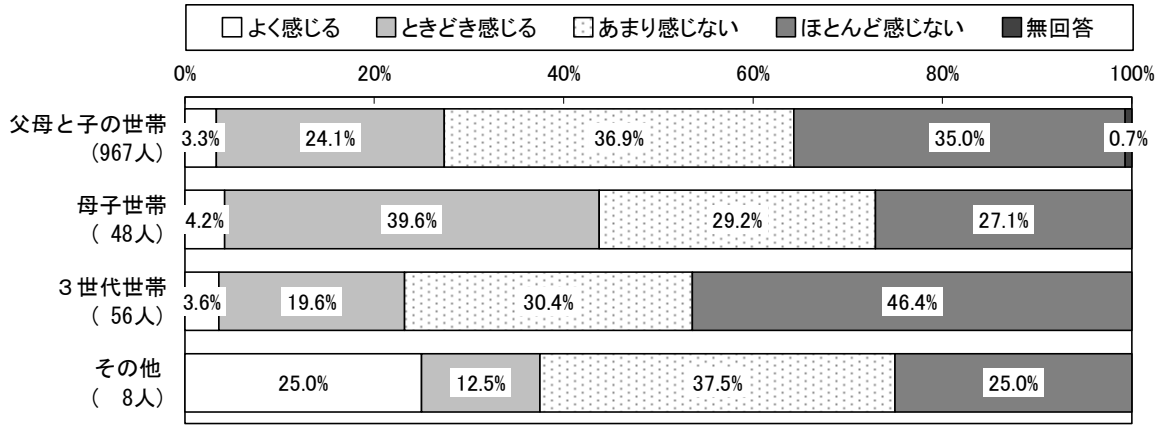
子育て家庭の孤立感をみると、「よく感じる」、「時々感じる」と合わせた“孤立を感じる”という割合は、28.0%となる。また、保育施設の利用有無別にみると、「利用している」では“孤独感あり”は 27.7%、「利用していない」では 29.5%を占める。

全体・教育・保育サービスの利用有無別　孤独を感じるとき

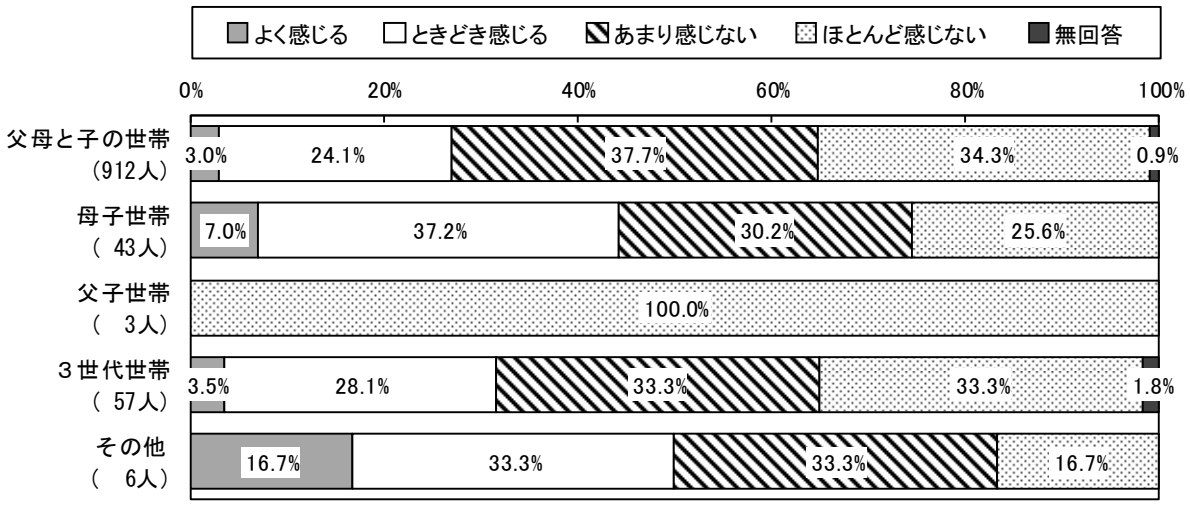


世帯構成別でみると、母子世帯の“孤独感あり”は 43.8%と他の世帯より高くなっている。前回調査時と同程度の孤立感である。(前回調査では 44.2%)

世帯構成別　孤独を感じるとき



(前回)



⑹周囲のサポートについて

子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあれば良いかについて尋ねた。

経済的サポートや、一時保育・病児保育、産後ケアの充実など様々な声が上がっている。

1．経済的サポート・費用軽減
- ●経済的なサポート(支援金、給付金、保育料の軽減)
- ●保育料の無償化(0歳児から)
- ●オムツやミルクの助成金、現物支給
- ●学童保育の金銭補助
- ●物価高騰に対する費用負担の軽減
  (例:学校備品の購入費用の低減、リサイクル化)

2．一時保育・病児保育・親のリフレッシュ・サポート
- ●一時保育の充実
- ●リフレッシュ用の短時間保育
- ●土日や休日の預かりサポート
- ●病児保育施設の増設
- ●短時間でも預かってもらえる場所
- ●用事があるときに利用できる一時預かり
- ●仕事と家事に追われている親のためのサポート
- ●親がリフレッシュできる時間の確保
- ●急な預かりや送迎サービス

3．産後ケアの充実
- ●産後ケア事業の拡充(利用回数の増加、料金負担の軽減)
- ●周知徹底(県外出身者向けに分かりやすい情報提供)
- ●助産院での子の預かりと母親のリフレッシュサポート
- ●自宅での訪問サポート(早期訪問、希望者には多くの訪問)
- ●無料回数の増加
- ●配食サービスの提供

4．相談窓口の拡充
- ●気軽に相談できる場所や窓口
- ●相談窓口の周知や対応の統一
- ●子育て方針の相談窓口
- ●親身に話を聞いてくれる場所
- ●定期的な困り事や悩み事の聞き取り
- ●気軽に相談できるLINEサービスの提供
- ●離乳食や乳幼児食のサポート
- ●親への育児教育やアドバイス

5．保育所・保育園の拡充
- ●産休・育休中でも保育園に預けられるようにする
- ●保育施設の増設
- ●保育士の環境改善と増員
- ●兄弟姉妹が同じ保育施設に入れるようにする
- ●土曜日保育の利用しやすさの向上
- ●延長保育時間の拡充(19時30分や20時30分まで)
- ●積極的な入所案内

6．仕事と子育ての両立支援
- ●仕事と家事に追われる親のための家事代行サービス
- ●ミールキットなどの食事支援
- ●職場環境の配慮(休みを取りやすくするなど)

7．情報提供と周知
- ●行政の取り組みや制度の情報提供
- ●子育てに関する情報(地域の保育園や病院の情報等)
- ●子育て支援センターや利用可能なサービスの情報提供
  (ファミリーサポート、サークル等)
- ●ネット上で見やすい情報提供

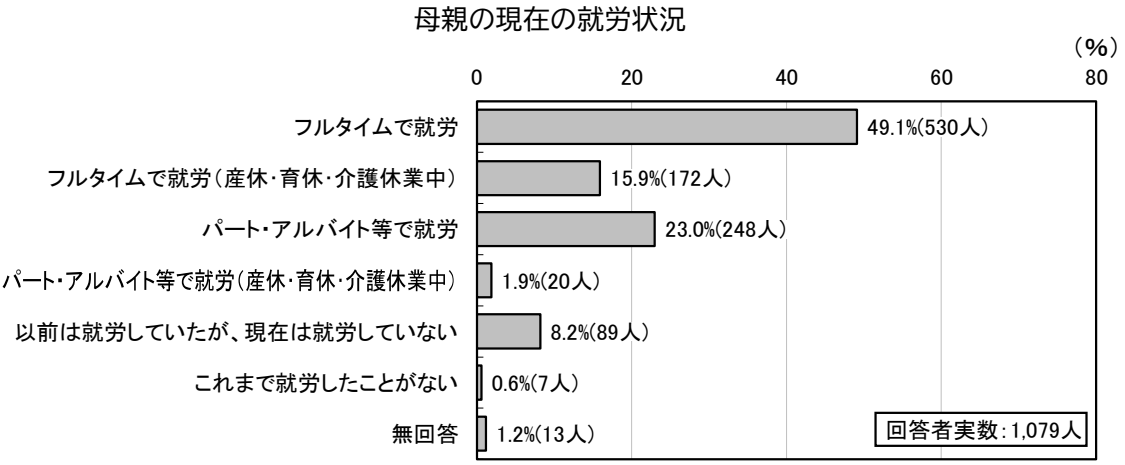
8．その他のサポート
- ●公園や児童館の整備
- ●子ども連れで利用できる飲食店の情報提供
- ●子どもの成長を支援するイベントの提供
  (親子クッキングや工作等)
- ●子どもたちが自分たちで出入りできる居場所の提供
  (こども食堂や区民食堂等)
- ●離乳食や乳幼児食のサポート
- ●親への育児教育やアドバイス
- ●小児科医や医院の増設

２．　母親・父親の就労について

(1)母親の現在の就労状況

就労している母親は、就学前児童保護者で 89.9%となっている。フルタイムでの勤務は 65.0%(49.1%＋15.9%)、パート・アルバイト等での勤務は 24.9%(23.0%＋1.9%)である。全国的にも共働き家庭は増加傾向にあるが、本町の母親の就労率は極めて高い。なお、就労していない母親は 8.8%(8.2%＋0.6%)であった。

前回調査時よりも、働く母親の割合が上昇している。

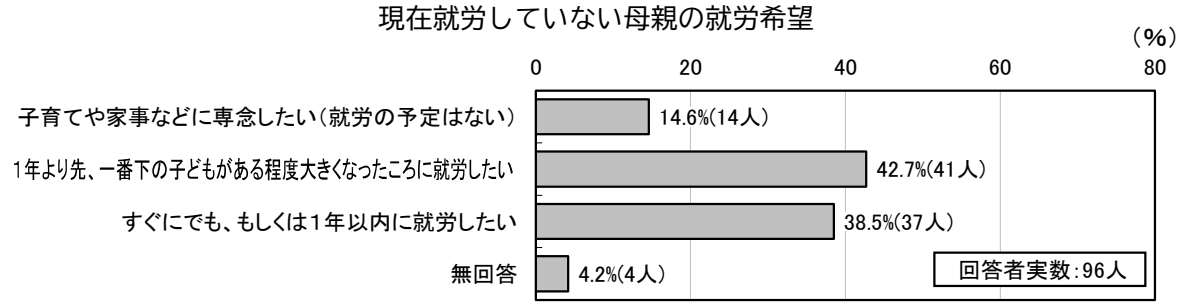


(前回)

就労している母親は、就学前児童保護者で 83.0%となっている。フルタイムでの勤務は 61.1%(43.1%＋18.0%)、パート・アルバイト等での勤務は 21.9%（18.9%＋3.0%）である。なお、就労していない母親は 16.0%（14.9%＋1.1%）であった。

(2)現在就労していない母親の就労希望

就労していない母親のうち、「すぐにでも働きたい」と考えている割合は就学前児童保護者で 38.5%となっている。「１年より先、一番下の子どもがある程度大きくなったころに就労したい」は 42.7%であり、これらを合わせると 81.2%が就労を希望している。

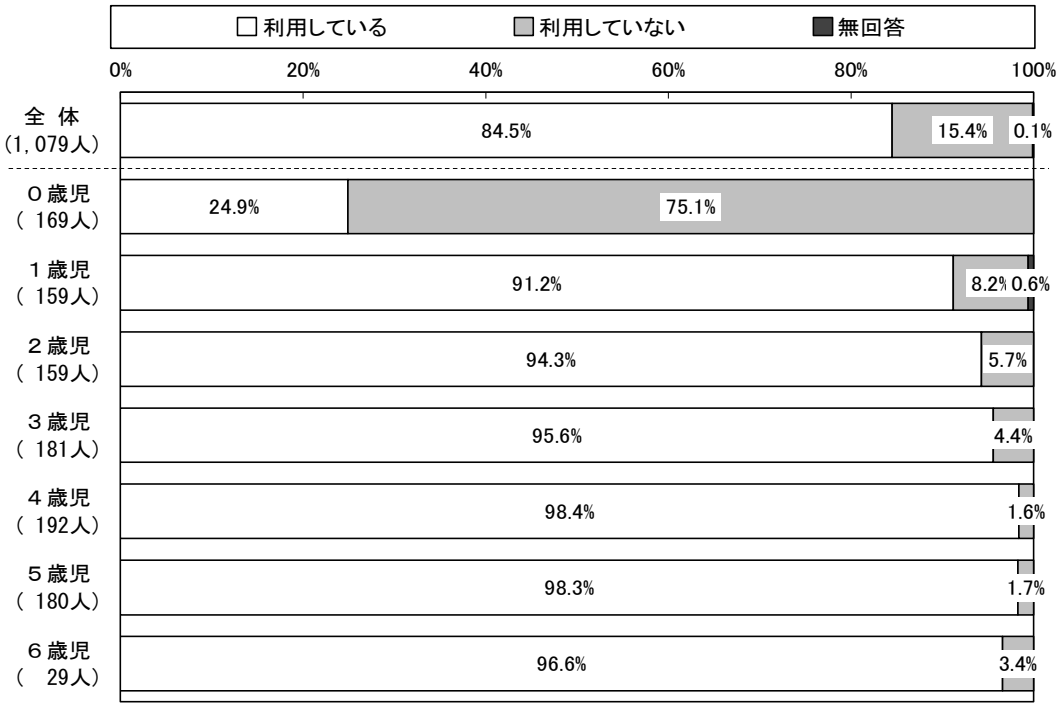


３．教育・保育サービスの利用について

(1)教育・保育のサービスの利用の有無

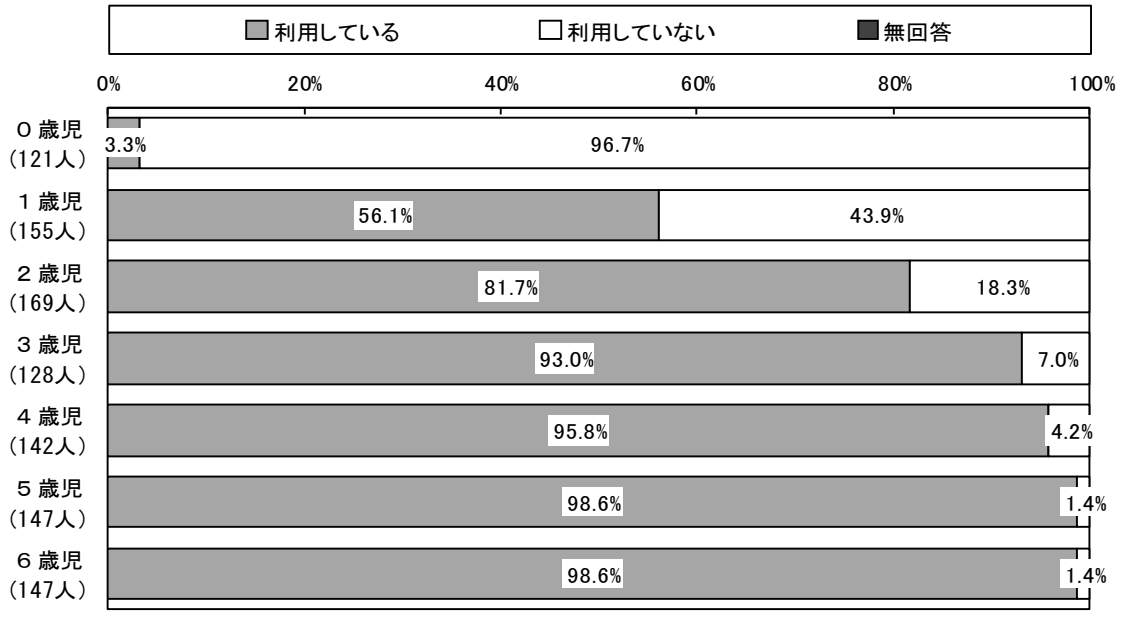
保育施設等の利用有無をみると、ほぼ全ての年齢で利用率が上昇している。前回調査時は、１歳児、２歳児の利用率が９割に満たなかったが、今回調査では９割を超えている。

全体・子どもの年齢別　教育・保育のサービスの利用の有無



（前回：年齢別の利用有無）

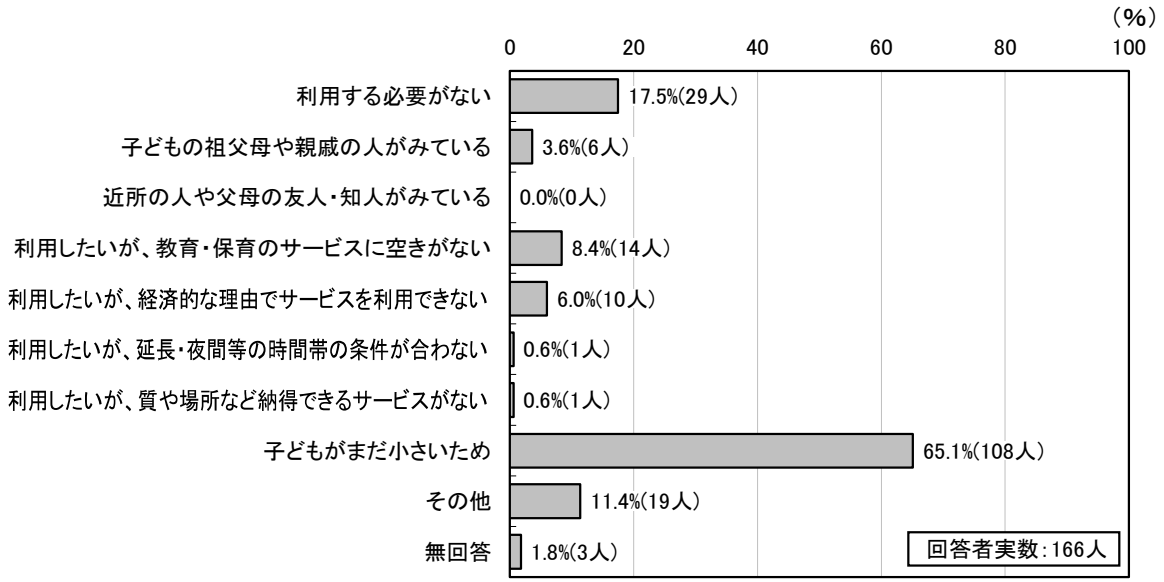
子どもの年齢別　教育・保育のサービスの利用の有無



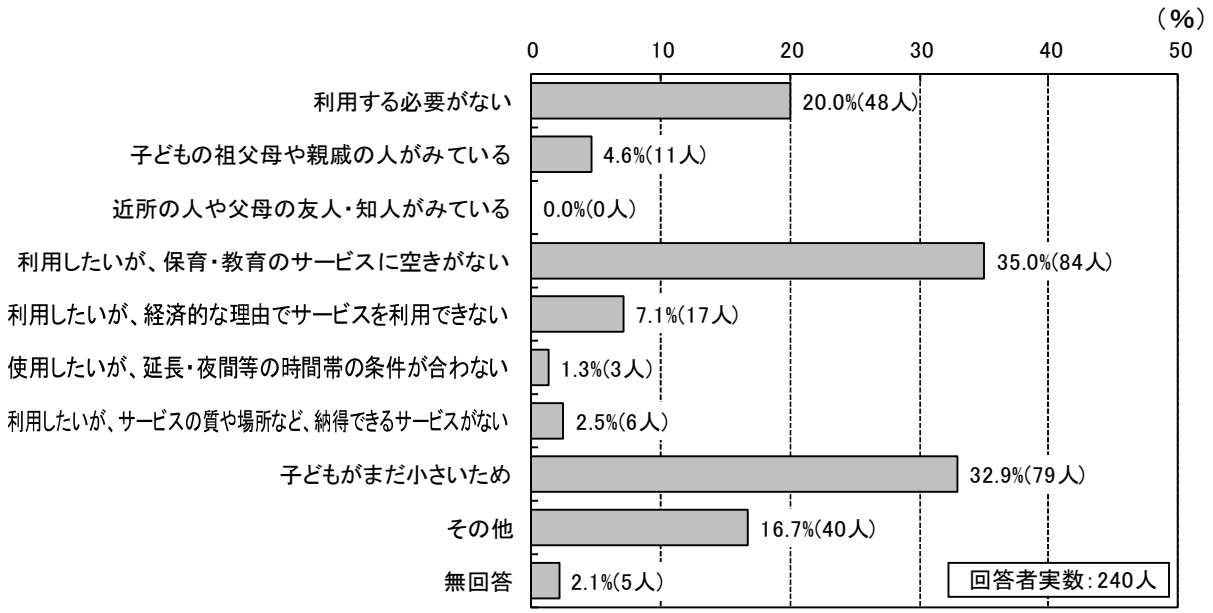
(2)教育・保育サービスを利用していない理由

保育施設等を利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」という回答が 65.1%で最も高く、「空きがない」という回答は 8.4%となっている。前回調査時には、「空きがない」という回答が 35.0%あり、今回調査では大幅に減少している。空きがないという回答は、１～３歳の低年齢児で多い。

教育・保育サービスを利用していない理由



（前回）

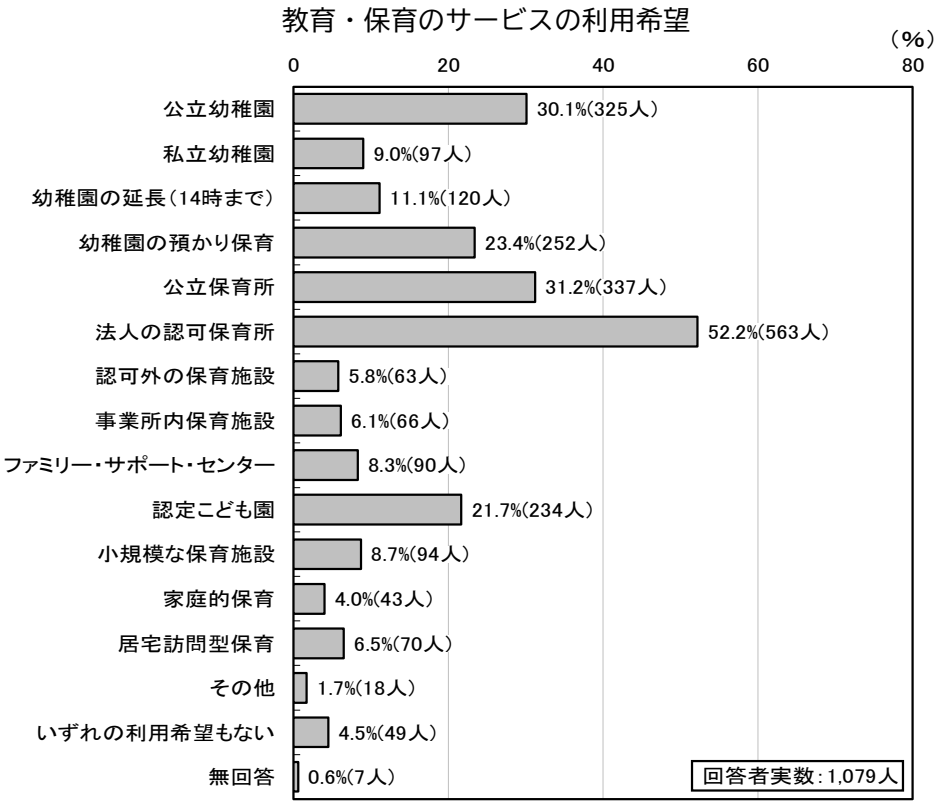


子どもの年齢別　教育・保育サービスを利用していない理由

	回答者実数	利用する必要がない	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、教育・保育のサービスに空きがない	利用したいが、経済的な理由でサービスを利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、質や場所など納得できるサービスがない	子どもがまだ小さいため	その他	無回答
０歳児	127 人	14.2% (18 人)	3.1% (4 人)	0.0% (0 人)	3.1% (4 人)	2.4% (3 人)	0.0% (0 人)	0.8% (1 人)	76.4% (97 人)	11.8% (15 人)	0.0% (0 人)
１歳児	13 人	46.2% (6 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	23.1% (3 人)	30.8% (4 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	23.1% (3 人)	7.7% (1 人)	0.0% (0 人)
２歳児	9 人	11.1% (1 人)	11.1% (1 人)	0.0% (0 人)	44.4% (4 人)	11.1% (1 人)	11.1% (1 人)	0.0% (0 人)	44.4% (4 人)	0.0% (0 人)	11.1% (1 人)
３歳児	8 人	25.0% (2 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	37.5% (3 人)	25.0% (2 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	12.5% (1 人)	25.0% (2 人)	0.0% (0 人)
４歳児	3 人	33.3% (1 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	33.3% (1 人)	33.3% (1 人)	0.0% (0 人)
５歳児	3 人	33.3% (1 人)	33.3% (1 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	33.3% (1 人)
６歳児	1 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	100.0% (1 人)

(3)教育・保育のサービスの利用希望

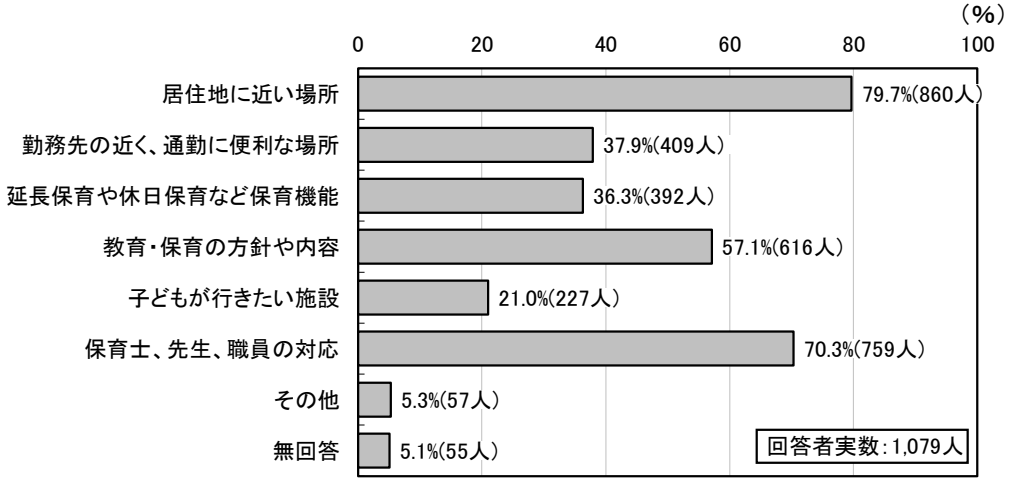
教育・保育施設の利用希望では、「法人の認可保育所」への希望が５割余りで高いほか「公立保育所」と「公立幼稚園」がそれぞれ３割程度となっている。



(4)教育・保育サービスを選ぶときに重視すること

教育・保育サービスを選ぶ際に重視することとしては、「居住地に近い場所」が約８割を占めて最も多い。そのほか、「保育士、先生、職員の対応」が７割、「教育・保育の方針や内容」が６割近くを占めており、教育・保育の質にも関心が高いことがわかる。

教育・保育サービスを選ぶときに重視すること

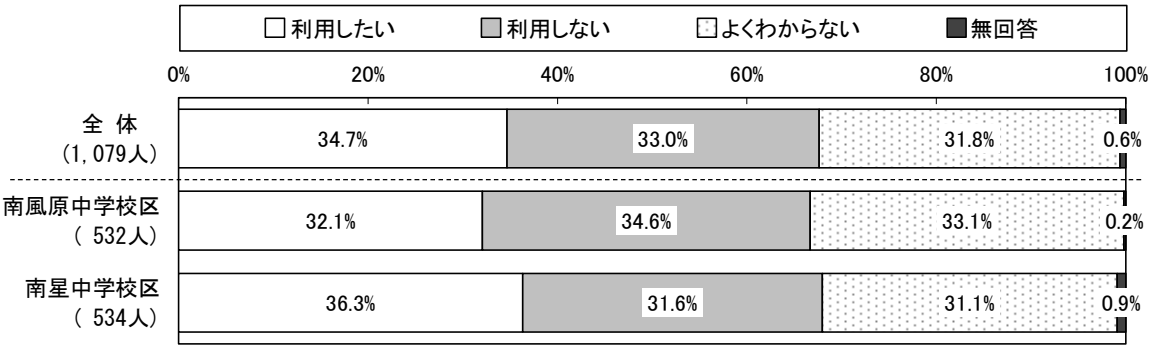


(5)公立幼稚園での３年保育の利用意向

公立幼稚園での３歳児からの３年保育ニーズを確認したところ、「利用したい」が３割半ばとなっている。また「よくわからない」という回答も３割程度ある。

中学校区別にみると、「利用したい」は南星中学校区の方が、南風原中学校区より若干高くなっている。

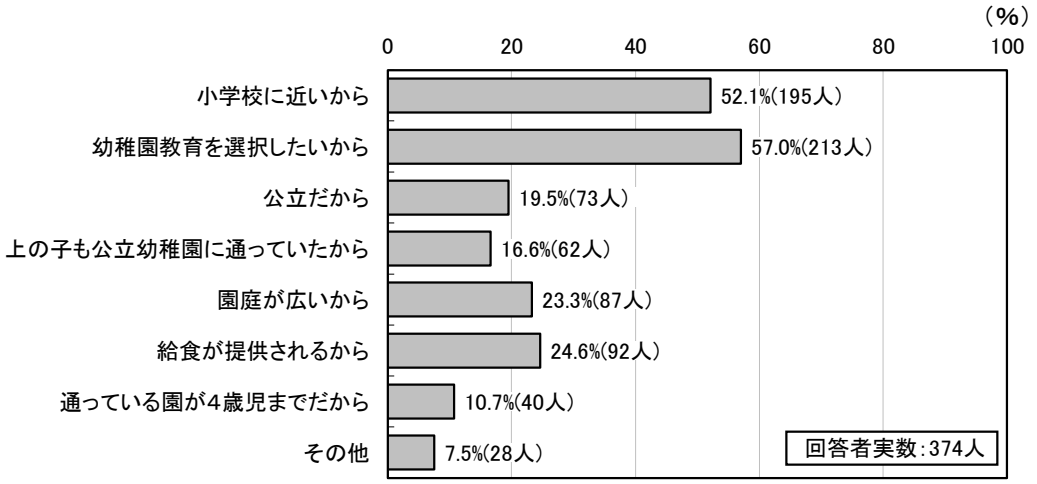
全体・小学校区別　公立幼稚園での３年保育の利用意向



(6) 公立幼稚園（３年保育）を利用したい理由

公立幼稚園（３年保育）を利用したい理由については、「幼稚園教育を選択したいから」と「小学校に近いから」が５割を超えており高い。また、「給食が提供されるから」と「園庭が広いから」も２割台とやや高い。

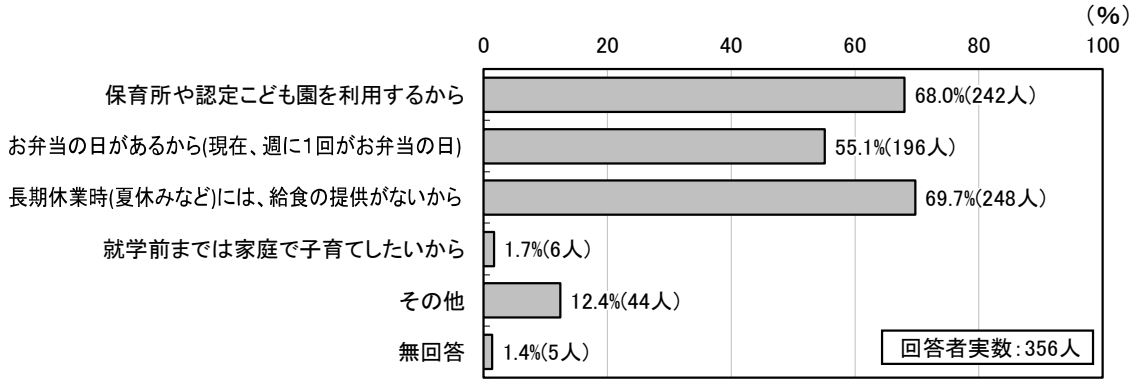
公立幼稚園（３年保育）を利用したい理由



(7) 公立幼稚園（３年保育）を利用しない理由

公立幼稚園（３年保育）を利用しない理由については、、「保育所や認定こども園を利用するから」と「長期休業時（夏休みなど）には、給食の提供がないから」が約７割であるほか、「お弁当の日があるから」も 50％を超え高い。

公立幼稚園（３年保育）を利用しない理由



1(8)公立幼稚園（３年保育）を利用する際の条件について

公立幼稚園がどのような利用条件になれば、保育所や認定こども園よりも利用したいと思うか。利用する際の条件について尋ねた。

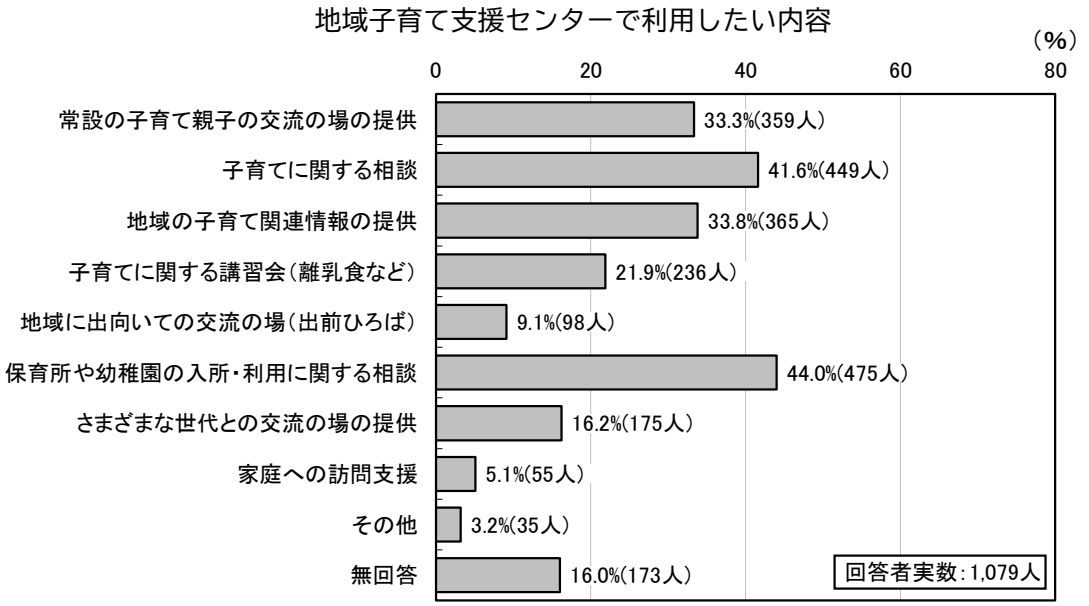
以下、記入の多い声について記載する。

１．保育時間の延長 ●迎えの時間を延ばす（17時30分、18時頃まで） ●朝の受け入れ時間を7時開始 ●預かり保育時間の延長 ●保育園と同じ利用時間 **２．土日・長期休暇の預かり** ●土日の保育 ●長期休みの受け入れ ●休暇中の給食提供（夏休みも給食あり、週1は弁当） **３．保育環境の質の向上** ●子どもに寄り添った保育 ●保育士の配置人数の確保 ●体を使った遊びの充実 ●教育内容の充実（英語、数字、ひらがな、体育など） **４．一貫した保育** ●0～5歳児まで一貫して通う保育 ●3歳までは保育園を利用したい	**５．施設の充実と利用のしやすさ** ●駐車場の確保（送迎や雨天時の負担軽減） ●幼稚園と保育園の違いが分からないための不安解消 ●施設環境の整備（遊ぶ環境の充実） ●安心して預けられる環境の提供 **６．情報共有とコミュニケーション** ●日々の子どもの様子の共有（「今日何をしたか？」など） ●行事やお知らせのしっかりした伝達 **７．その他** ●弁当持参の日の減少 ●公立幼稚園、保育所、認定こども園の違いの周知

４．子育て支援について

(1)地域子育て支援センターで利用したい内容

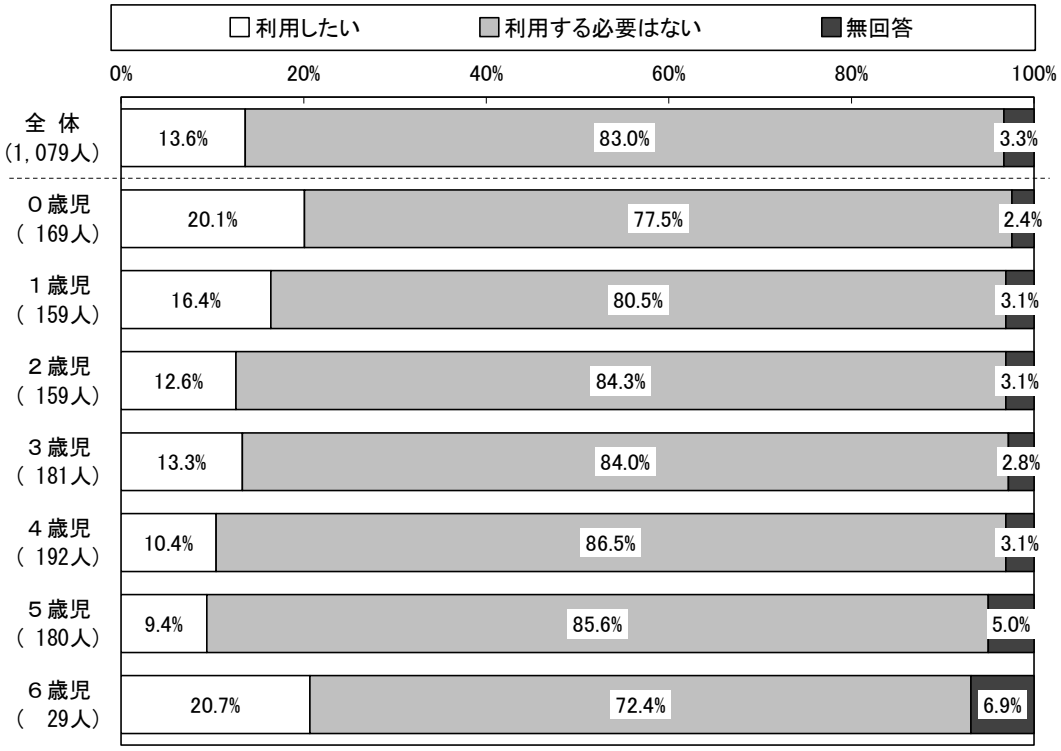
地域子育て支援センターへの要望としては、「子育てに関する相談」と「保育所や幼稚園の入所・利用相談」が４割程度で高くなっている。



(2)一時預かりの利用意向・利用目的

一時預かりの利用希望は 13.6%となっている。前回調査の 34.9%より減少している。共働き家庭の増加による保育施設利用が増えたことで、一時預かりの利用希望率が下がったことも考えられる。

全体・子どもの年齢別　一時預かりの利用意向

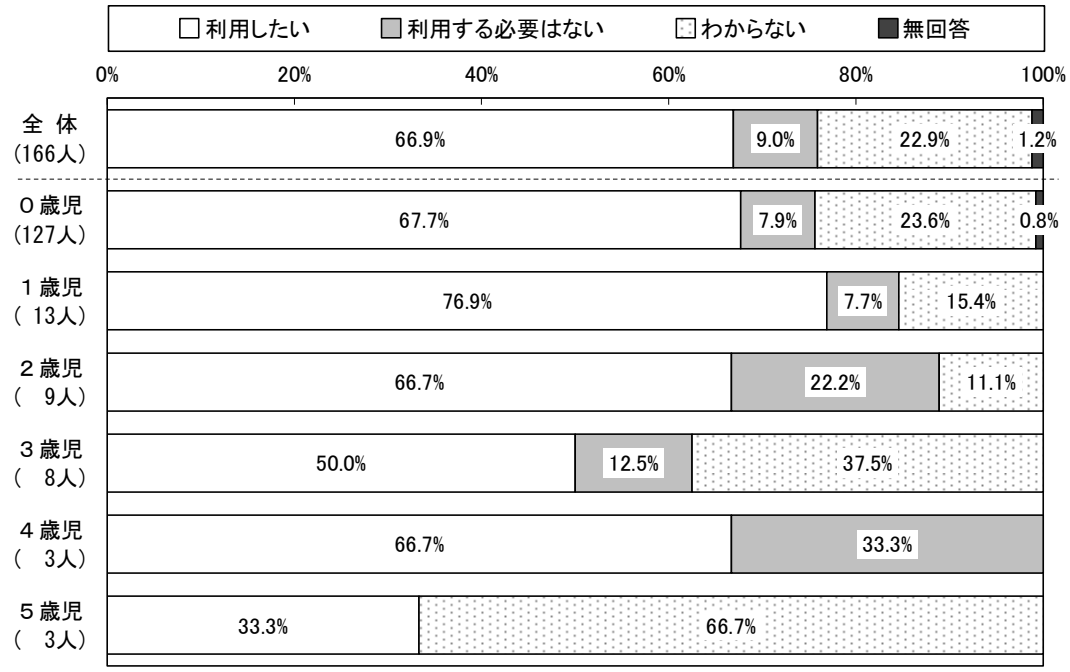


(3)「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用意向

国では、両親の就労状況に関係なく、２歳までの未就園児を対象に保育園を利用できる制度として「こども誰でも通園制度(仮称)」の導入が予定されている。

この制度の利用意向率は６割半ばと高い。子どもの年齢別にみると、「利用したい」は１歳児が７割半ばで最も高い。

全体・子どもの年齢別　「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用



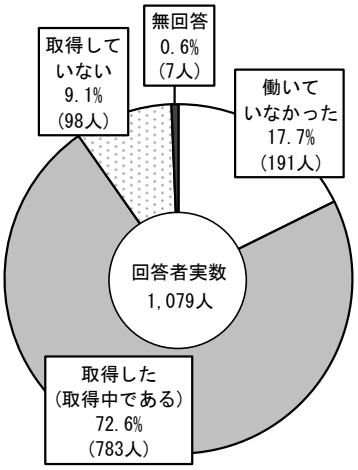
５．子育てと仕事の両立について

(1)育児休業の取得状況

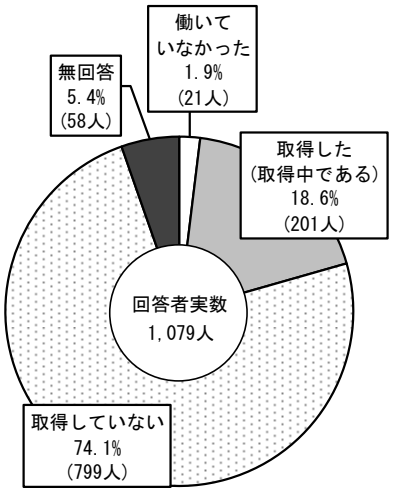
育児休業の取得経験者は、母親で 72.6%となっており、前回調査時の 57.8%より高くなっている。前回は「働いていなかった」割合が高かったことも、取得経験者が増えた要因の一つと考えられる。取得してない割合は、今回調査では 9.1%、前回調査では 12.5%であり、やや下がっている。

父親の育児休業取得経験者は、18.6%であり、前回調査の 3.3%から上昇している。上昇はしているものの、取得率は低くとどまっている。

育児休業の取得状況（母親）

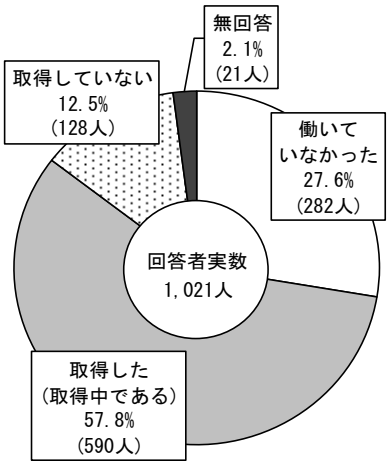


育児休業の取得状況（父親）

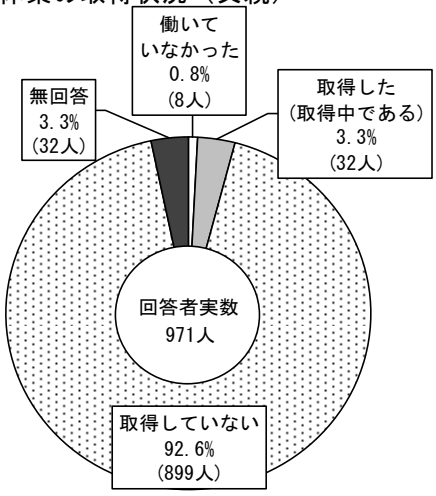


(前回)

育児休業の取得状況（母親）

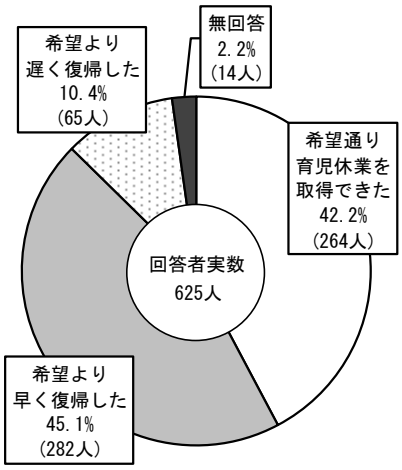


育児休業の取得状況（父親）

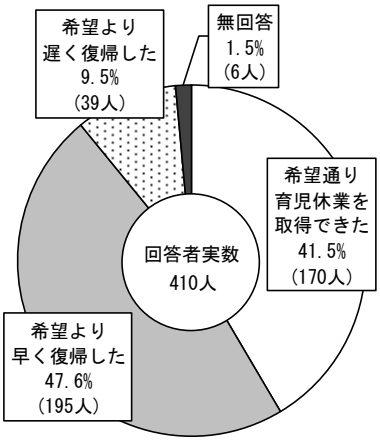


(2)育児休業の取得期間と希望取得期間の違い

母親の育児休業について、希望通りの育休期間を取得できた割合が 42.2%であり、希望より早く復帰したという割合は 45.1%となっている。調査結果について、前回調査時との差はほとんどない。



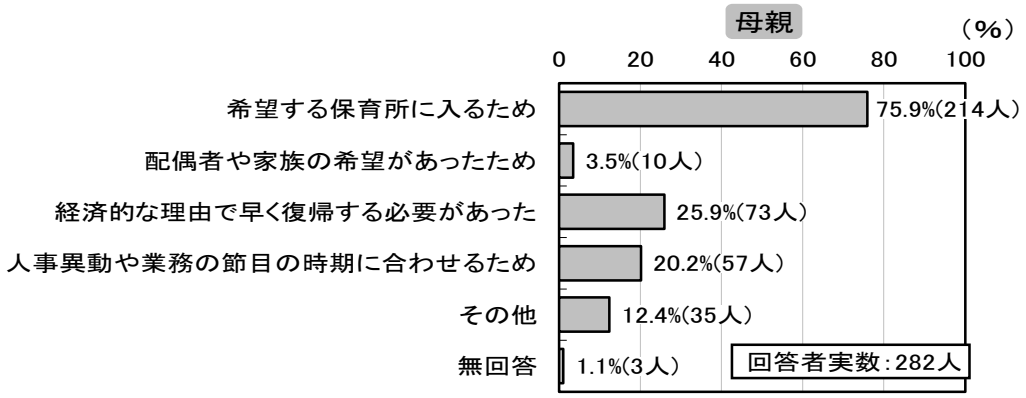
(前回)



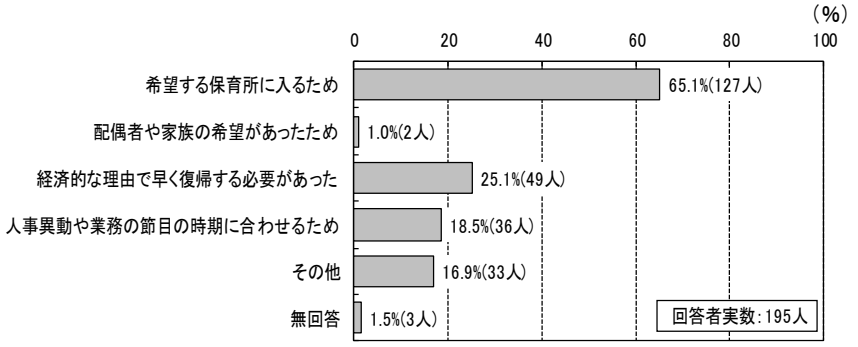
(3)希望より早く復帰した理由

希望より早く復帰した理由は、母親では、「希望する保育所に入るため」が 75.9%で大半を占めている。前回調査時はこの回答が 65.1%であり、年度途中での保育所入所が一層困難となり、育休を早く切り上げる傾向になっていると見られる。

希望より早く復帰した理由

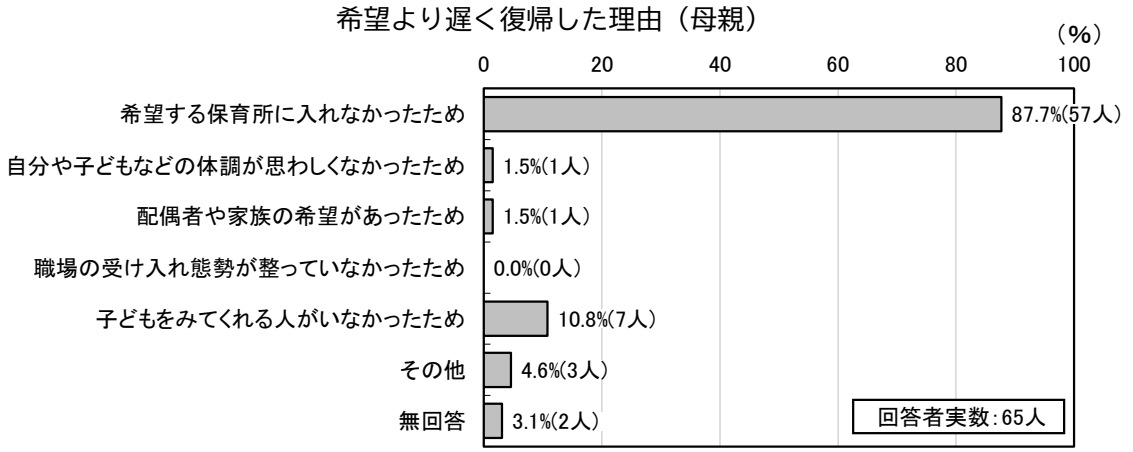


(前回)

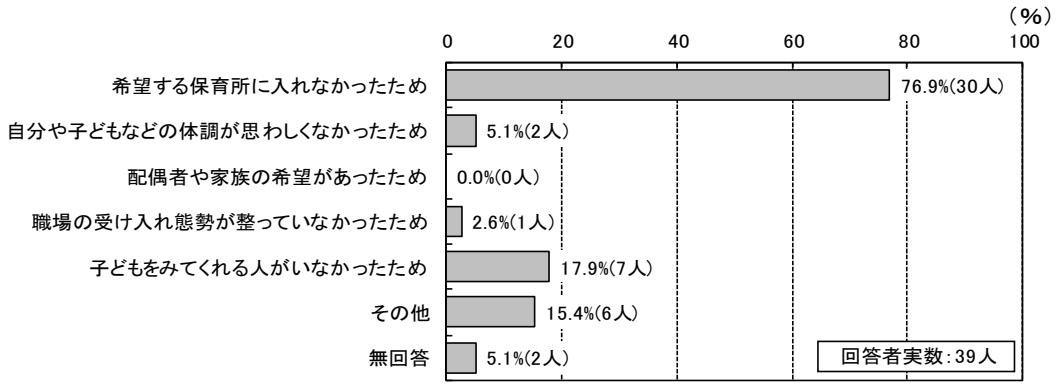


(4)希望より遅く復帰した理由

希望より遅く復帰した理由では、「希望する保育所に入れなかったため」が 87.7%を占めている。前回調査時はこの回答が 76.9%であり、育休期間を延長せざるを得ない状況の人が増えていることがわかる。

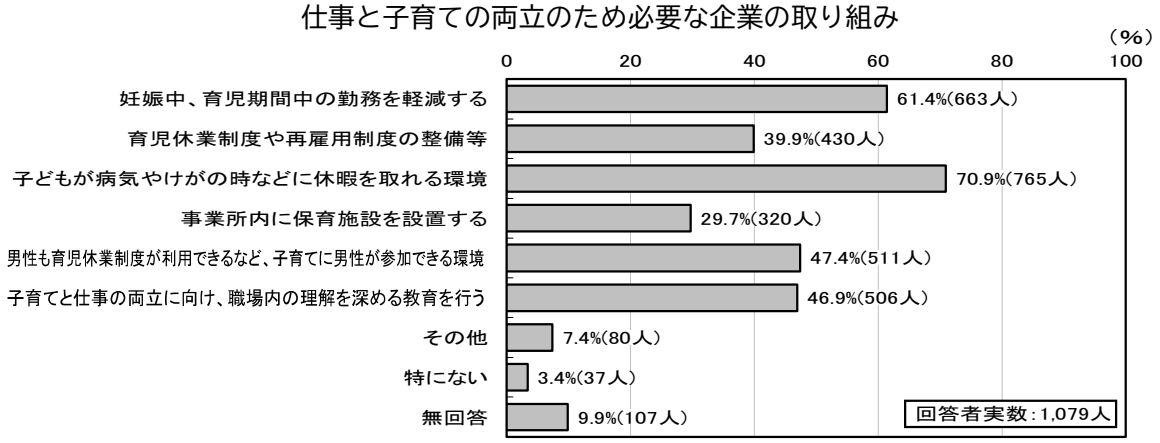


（前回）



(5)仕事と子育ての両立のため必要な企業の取り組み

仕事と子育ての両立のために必要な企業の取組としては、「子どもが病気やけがの時などに休暇をとれる環境」が最も高く、次いで「妊娠中、育児期間の勤務の軽減」となっている。その他、「子育てと仕事の両立についての職場の理解」、「男性が子育てに参加できる環境を求める声」も高くなっている。

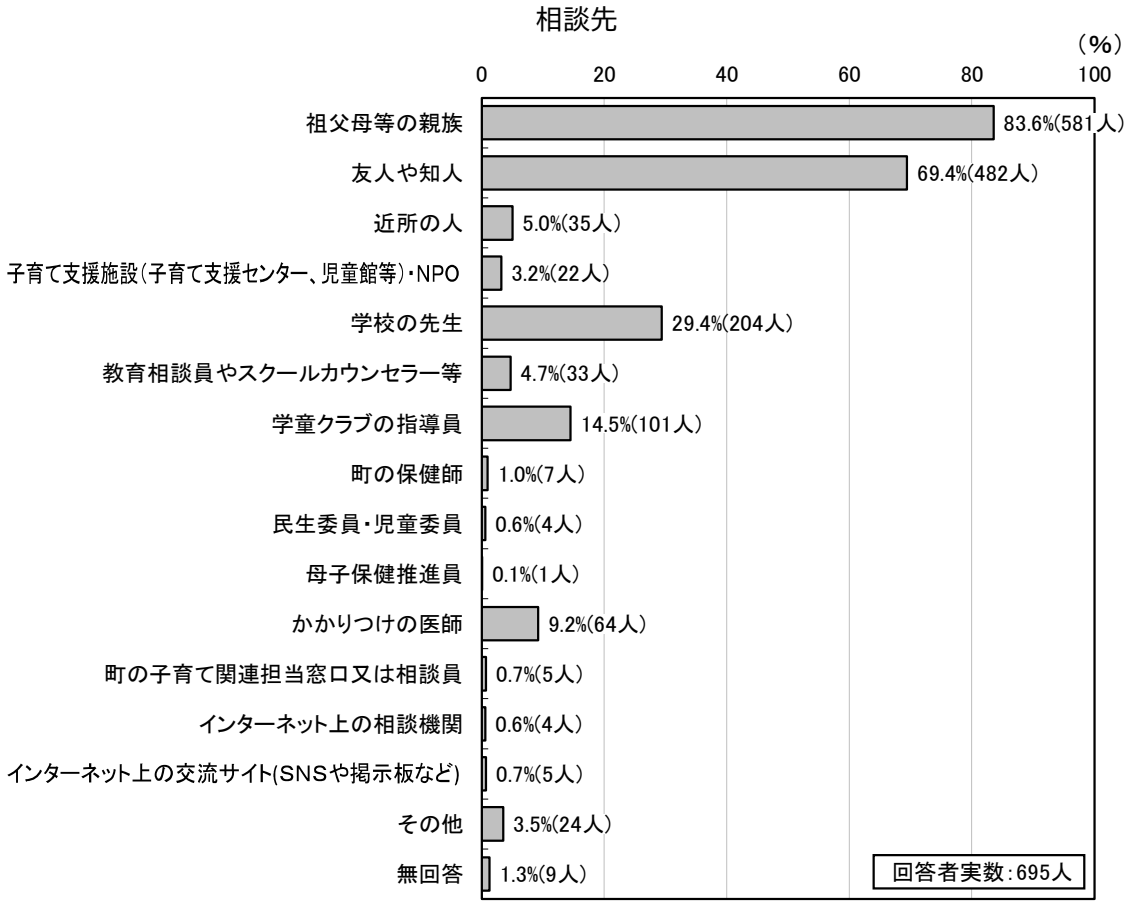


■　調査結果（小学生）

１．子育て家庭の状況について

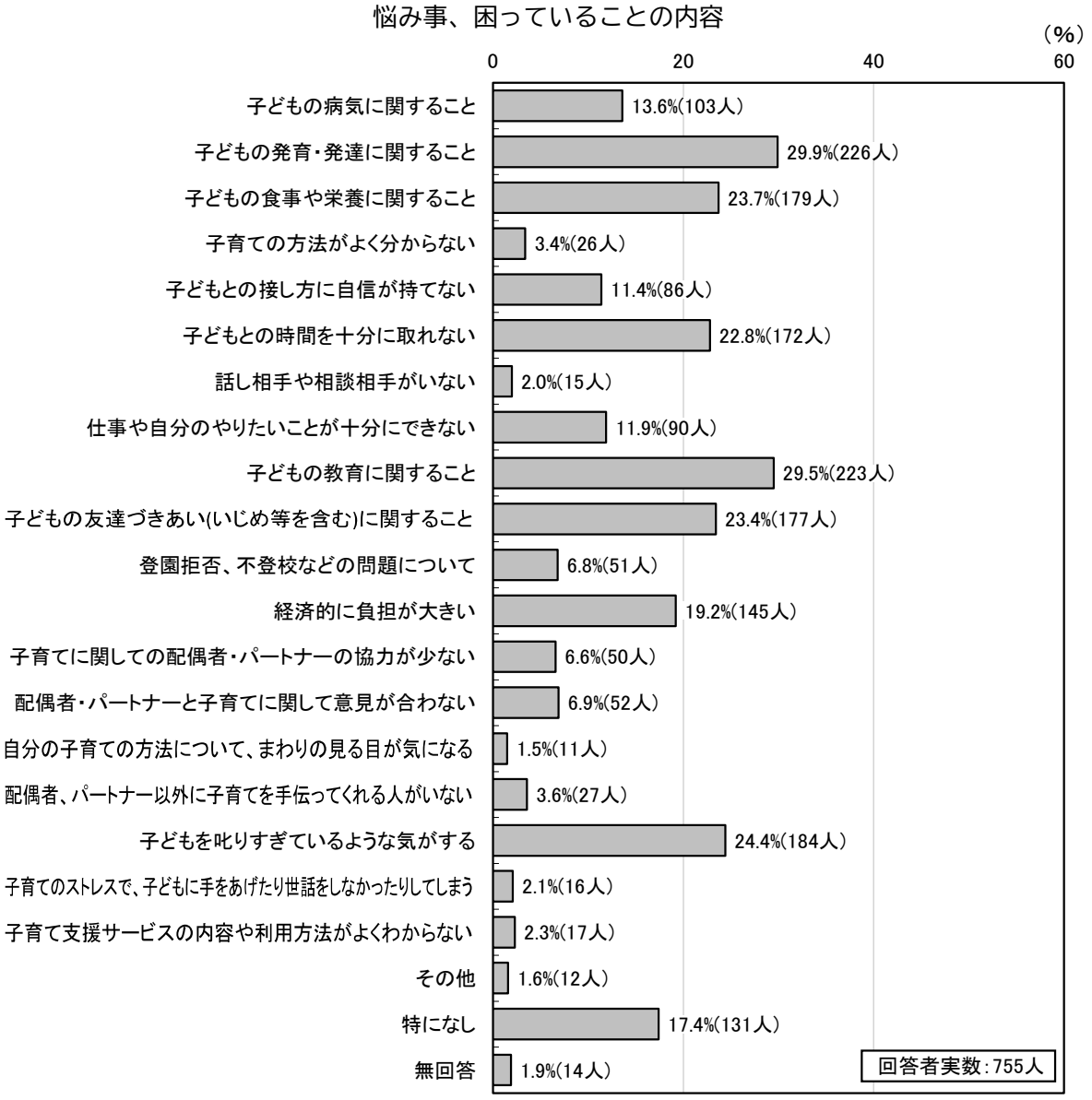
(1) 相談先

身近な人への相談がとても高い。学校の先生など、接しやすい人への相談がやや高い傾向にある。専門的な相談先の利用は低い。



(2)悩み事、困っていることの内容

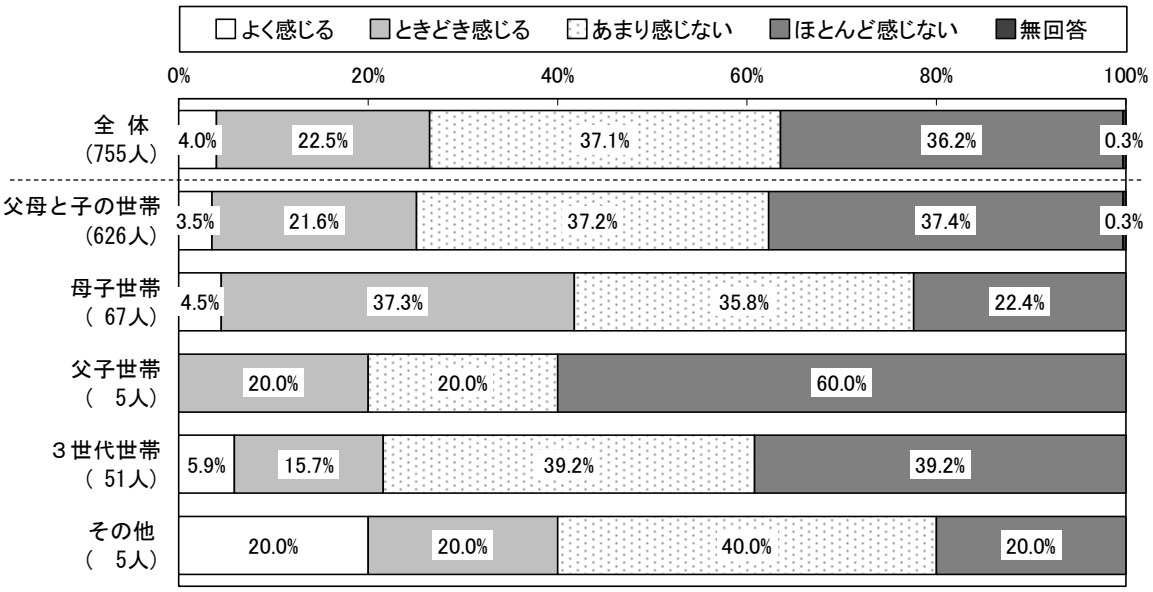
小学生を持つ保護者の悩み、困りごとでは、「発育・発達に関すること」と「こどもの教育」が約３割で最も高い。また、「子どもを叱り過ぎているような気がする」、「食事・栄養」、「子どもの友達付き合い、いじめ」、「子どもとの時間が取れない」といった悩みが高くなっている。



(3)孤独を感じるとき

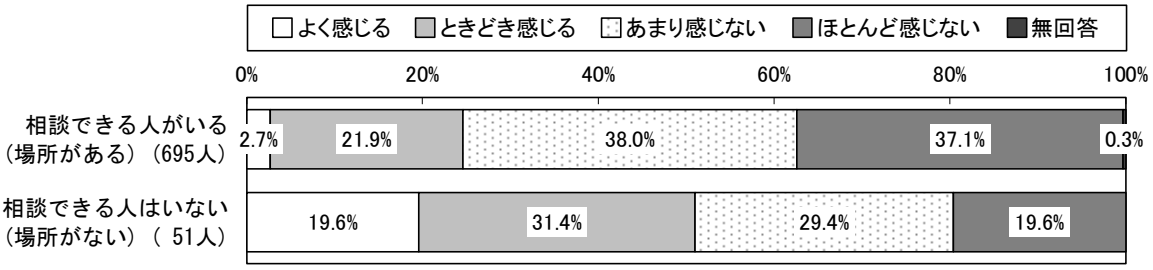
「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた“孤独感あり”の割合は26.5%となっている。母子世帯では、41.8%となり、孤独を感じる割合が高い。

全体・世帯構成別　孤独を感じるとき



相談先の有無別にみると、「相談できる人がいる」という回答では、“孤独感あり”が24.6%であるのに対し、「相談できる人はいない」では、51.0%と高い。さらに「(孤独感を)よく感じる」も「相談できる人はいない」では19.6%となっており、相談先の有無と子育ての孤独感で関係性が見られる。

相談先の有無別　孤独を感じるとき



⑷ 周囲のサポートについて

子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあれば良いかについて尋ねた。

1．子どもの預け場所とサポートに関する要望
- ●子どもを気軽に預けられる場所が欲しい
- ●放課後や休日に利用できる学童や預かり場所
- ●児童館のような場所を増やしてほしい
- ●土日なども子ども達が安全に遊べる場所の提供
- ●長期休みの際の子どもの居場所
- ●緊急時にすぐ子どもを見てくれる制度
- ●保育園、学童を増やしてほしい
- ●子どもの送迎サービス

2．教育に関する要望
- ●学童や塾などの提携による宿題サポート
- ●教員の負担軽減とケアの分担
- ●子どもの成長に合わせた教育体制
- ●小中学校の家庭学習支援
- ●学校での勉強内容を親が把握しやすい仕組みづくり
- ●進学や就職の情報提供
- ●発達の相談窓口の充実
- ●親向けの子育て講演会の増加
- ●高学年からの学力低下防止のためのサポート

3．経済的支援に関する要望
- ●給付金や金銭的支援
- ●食品の商品券や食費のサポート
- ●学童や保育園の費用軽減
- ●子ども関連の費用(教材、部費など)の補助
- ●住宅手当の補助
- ●中所得世帯への支援強化

4．働く環境と職場のサポートに関する要望
- ●職場環境の改善(時短勤務やパートタイムの選択肢の増加)
- ●子どもが体調不良時の親の仕事支援
- ●学校行事の親の休暇サポート

5．情報提供と相談窓口に関する要望
- ●SNSを利用した情報提供や相談
- ●子育てに関する詳細な情報提供
- ●定期的な困り事の聞き取り
- ●役所窓口での柔軟な相談対応

6．地域コミュニティと社会的サポートに関する要望
- ●登下校時の交通安全見守り
- ●危険な遊び場所での声かけ
- ●地域での子ども会の集まりや交流の場
- ●地域の大人の温かい見守り
- ●こども食堂や食糧支援

7．医療と健康に関する要望
- ●小児科の予約改善
- ●入院時の付き添い負担軽減
- ●保護者の体調不良時の子ども預かりサポート
- ●病児保育の充実

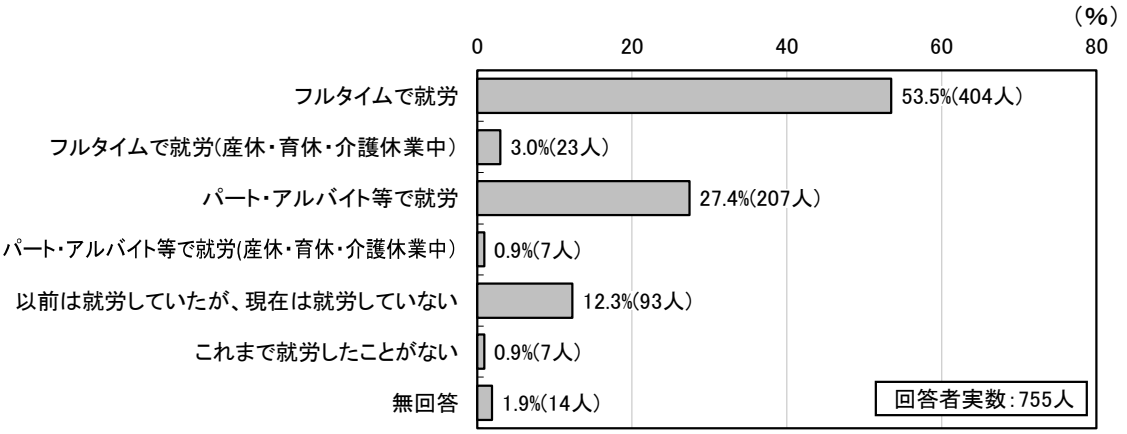
8．親のサポートに関する要望
- ●子どもや親がリフレッシュする時間・場所の提供
- ●家事代行サービス
- ●子どもの体調不良時の親のサポート体制
- ●不登校や引きこもりの子どもの保護者のメンタルケア

2　母親・父親の就労について

(1)母親の現在の就労状況

就労している母親は84.8%となっている。フルタイムでの勤務は56.5%(53.5%＋3.0%)、パート・アルバイト等での勤務は28.3%(27.4%＋0.9%)であった。また就労していない母親は13.2%(12.3%＋0.9%)となっている。全国的にも共働き家庭は増加傾向にあるが、本市の母親の就労率は極めて高い。

母親の現在の就労状況



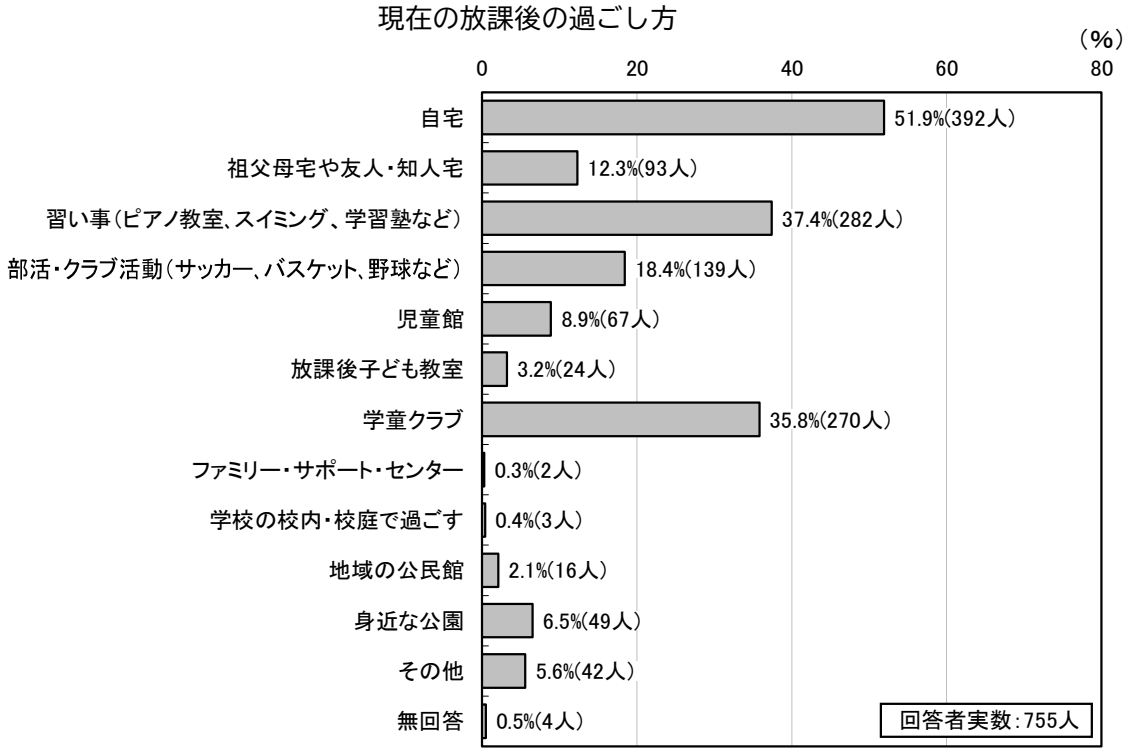
(前回)

就労している母親は85.7%となっている。フルタイムでの勤務は55.4%(52.0%＋3.4%)、パート・アルバイト等での勤務は32.1%(30.5%＋1.6%)であった。また就労していない母親は12.0%(11.3%＋0.7%)となっている。

３．放課後の過ごし方について

(1)現在の放課後の過ごし方

放課後は自宅で過ごすという回答が最も高いほか、「習い事」、「学童クラブ」、という回答が高い。



学年別に放課後の過ごし方をみると、「自宅」は学年が上がるとともに高くなる傾向にあり、５・６年生で７割程度となっている。「習い事」でも５・６年生が高い。「部活・クラブ活動」は６年生で３割余りとなっている。「学童クラブ」は、１・２年生は５割を超えており、３年生でも５割近くを占めている。

子どもの学年別　現在の放課後の過ごし方

	回答者実数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事（ピアノ教室、スイミング、学習塾など）	部活・クラブ活動（サッカー、バスケット、野球など）	児童館	放課後子ども教室	学童クラブ
１年生	124 人	31.5% (39 人)	7.3% (9 人)	33.1% (41 人)	9.7% (12 人)	12.9% (16 人)	11.3% (14 人)	55.6% (69 人)
２年生	116 人	40.5% (47 人)	7.8% (9 人)	32.8% (38 人)	8.6% (10 人)	7.8% (9 人)	3.4% (4 人)	51.7% (60 人)
３年生	150 人	40.7% (61 人)	12.0% (18 人)	32.7% (49 人)	17.3% (26 人)	8.7% (13 人)	0.7% (1 人)	48.0% (72 人)
４年生	112 人	55.4% (62 人)	14.3% (16 人)	37.5% (42 人)	21.4% (24 人)	8.9% (10 人)	0.0% (0 人)	37.5% (42 人)
５年生	111 人	73.9% (82 人)	21.6% (24 人)	47.7% (53 人)	20.7% (23 人)	10.8% (12 人)	0.9% (1 人)	9.0% (10 人)
６年生	120 人	71.7% (86 人)	10.8% (13 人)	41.7% (50 人)	32.5% (39 人)	3.3% (4 人)	2.5% (3 人)	9.2% (11 人)

	回答者実数	ファミリー・サポート・センター	学校の校内・校庭で過ごす	地域の公民館	身近な公園	その他	無回答
１年生	124 人	0.8% (1 人)	0.0% (0 人)	0.8% (1 人)	4.0% (5 人)	5.6% (7 人)	0.8% (1 人)
２年生	116 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	4.3% (5 人)	5.2% (6 人)	6.9% (8 人)	0.0% (0 人)
３年生	150 人	0.0% (0 人)	0.7% (1 人)	2.0% (3 人)	4.7% (7 人)	7.3% (11 人)	0.7% (1 人)
４年生	112 人	0.9% (1 人)	0.0% (0 人)	1.8% (2 人)	8.9% (10 人)	4.5% (5 人)	0.9% (1 人)
５年生	111 人	0.0% (0 人)	0.9% (1 人)	4.5% (5 人)	12.6% (14 人)	6.3% (7 人)	0.0% (0 人)
６年生	120 人	0.0% (0 人)	0.8% (1 人)	0.0% (0 人)	5.0% (6 人)	3.3% (4 人)	0.8% (1 人)

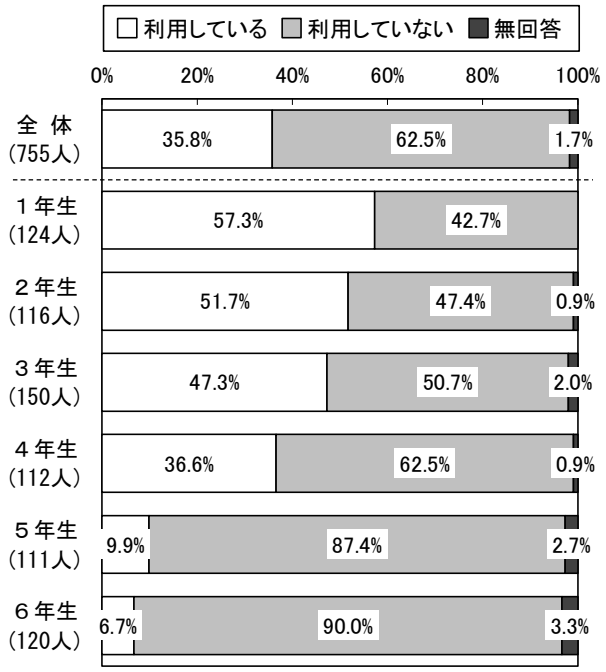
４．放課後児童クラブ(学童保育)の利用について

(1)放課後児童クラブ(学童保育)の現在の利用状況と利用希望

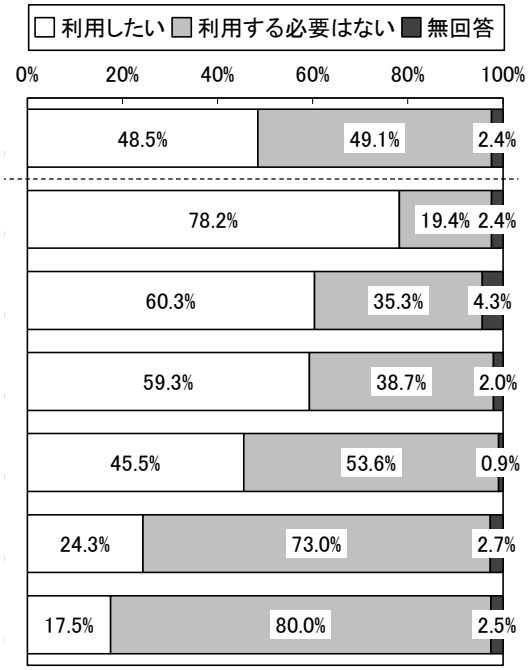
放課後児童クラブの利用は約３割半ば、利用希望は５割近くとなっている。

放課後児童クラブの利用希望を学年別にみると、１年生では８割近くを占め、２年生では６割半ばを占めている。３年生以上でも利用したいという声があり、４年生で４割半ば、５年生で２割半ば、６年生では１割半ばとなっている。

全体・子どもの学年別
学童クラブの現在の利用状況



全体・子どもの学年別
学童クラブの利用希望



(2)放課後児童クラブ(学童保育)の満足度

放課後児童クラブの満足度について様々な視点から把握した。全体的に９割前後の満足度となっているが、「利用料金」の満足度は６割程度となっている。

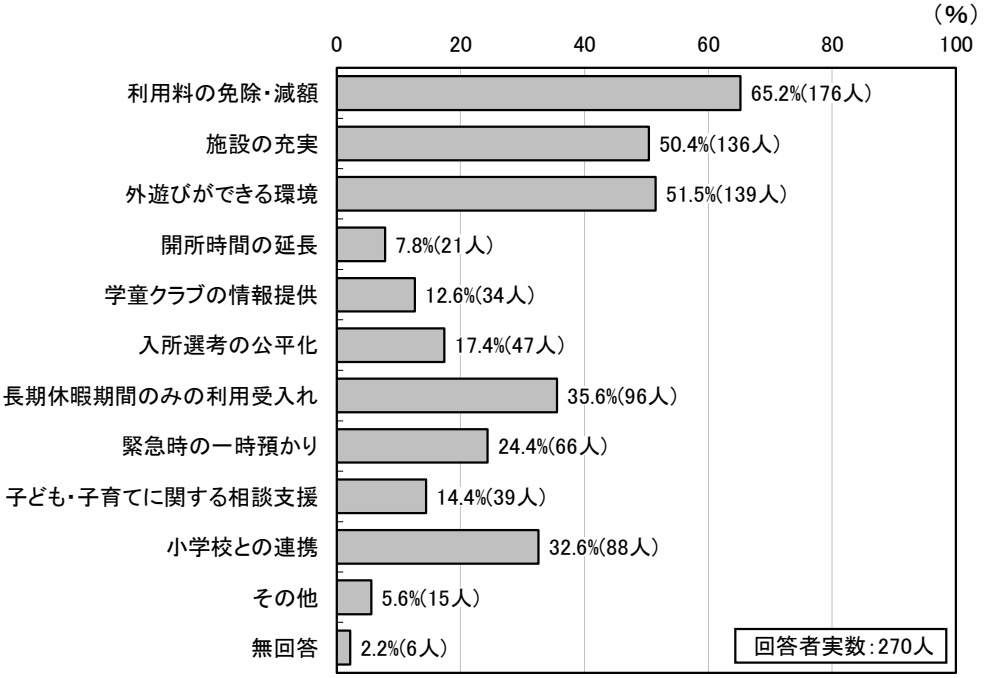
学童クラブの満足度　　※満足度＝「大変満足」と「ほぼ満足」を合わせた値

回答者実数　270 人	満足度	大変満足	ほぼ満足	やや不満	大変不満	よくわからない	無回答
施設・環境	76.6% (207 人)	30.7% (83 人)	45.9% (124 人)	18.9% (51 人)	2.6% (7 人)	1.5% (4 人)	0.4% (1 人)
職員等の配置状況 (人員体制)	86.3% (233 人)	33.7% (91 人)	52.6% (142 人)	7.4% (20 人)	2.2% (6 人)	3.7% (10 人)	0.4% (1 人)
子どもへの接し方	82.6% (223 人)	36.7% (99 人)	45.9% (124 人)	11.5% (31 人)	1.9% (5 人)	3.0% (8 人)	1.1% (3 人)
育成支援の内容(毎日の遊び及び生活支援の内容)	83.7% (226 人)	33.3% (90 人)	50.4% (136 人)	10.4% (28 人)	2.2% (6 人)	3.3% (9 人)	0.4% (1 人)
利用できる曜日や時間	89.2% (241 人)	52.2% (141 人)	37.0% (100 人)	7.0% (19 人)	1.9% (5 人)	1.1% (3 人)	0.7% (2 人)
利用料金	62.9% (170 人)	24.8% (67 人)	38.1% (103 人)	27.8% (75 人)	6.3% (17 人)	2.2% (6 人)	0.7% (2 人)
病気やケガの時の対応	78.9% (213 人)	32.6% (88 人)	46.3% (125 人)	6.7% (18 人)	1.5% (4 人)	12.6% (34 人)	0.4% (1 人)
保護者への情報伝達	86.3% (233 人)	40.7% (110 人)	45.6% (123 人)	7.8% (21 人)	3.0% (8 人)	2.2% (6 人)	0.7% (2 人)
悩みごとなどへの相談対応	76.6% (207 人)	30.7% (83 人)	45.9% (124 人)	8.5% (23 人)	1.9% (5 人)	12.2% (33 人)	0.7% (2 人)
保護者の要望・意見への対応	78.9% (213 人)	31.5% (85 人)	47.4% (128 人)	8.1% (22 人)	2.6% (7 人)	9.6% (26 人)	0.7% (2 人)
利用者間のネットワークづくり	71.4% (193 人)	23.3% (63 人)	48.1% (130 人)	12.2% (33 人)	1.1% (3 人)	14.8% (40 人)	0.4% (1 人)
安全対策	84.5% (228 人)	29.3% (79 人)	55.2% (149 人)	7.0% (19 人)	2.6% (7 人)	5.6% (15 人)	0.4% (1 人)
衛生対策	80.0% (216 人)	28.1% (76 人)	51.9% (140 人)	9.3% (25 人)	2.2% (6 人)	8.1% (22 人)	0.4% (1 人)

(3)放課後児童クラブ(学童保育)の充実・向上を図るために必要なこと

放課後児童クラブの充実・向上を図るために必要なことついては、「利用料の免除・減額」が６割余りで最も高くなっている。そのほか「外遊びができる環境」、「施設の充実」が５割台で高い。

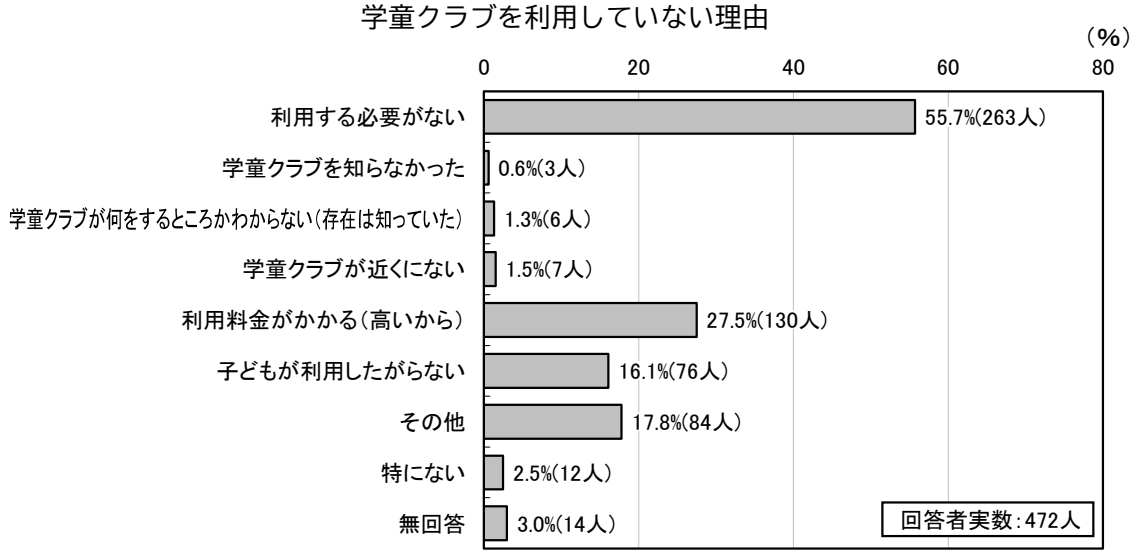
学童クラブの充実・向上を図るために必要なこと



(4)放課後児童クラブ(学童保育)を利用していない理由

放課後児童クラブを利用していない理由としては「利用料金がかかるから（高いから)」という回答が２割余りとなっている。

学童クラブを利用していない理由



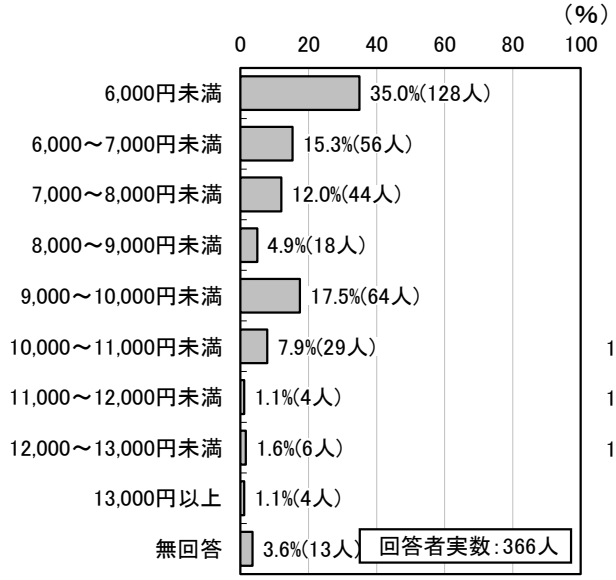
(5)利用料金の希望

学童クラブの利用料の希望については、「6,000 円未満」が 35.0％で最も高くなっている。

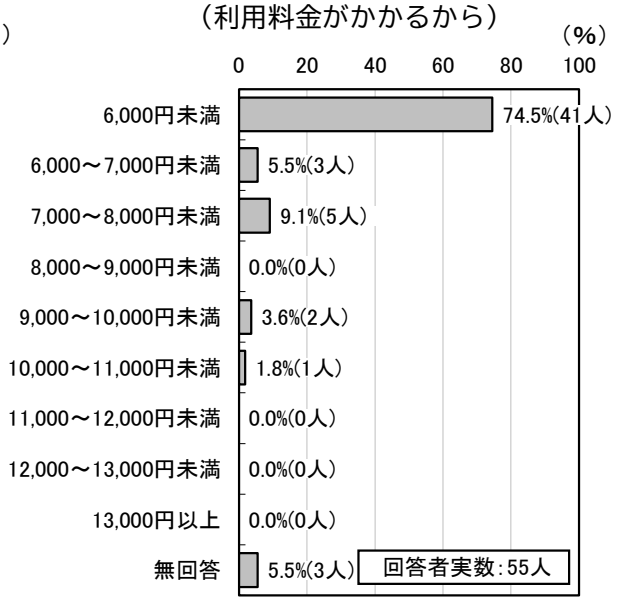
「学童クラブを利用していない理由」で「利用料金がかかるから(高いから)」と回答した人の希望料金をみると、「6,000 円未満」が 74.5％でほとんどを占めている。

利用料金を理由に学童クラブを利用していない人では、全体に比べてより低額が求められていることがわかる。

学童クラブの利用料の希望



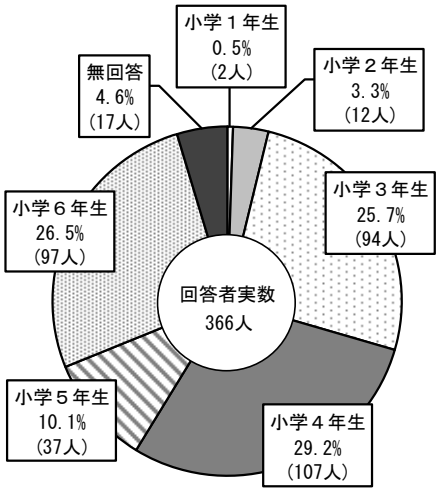
学童クラブの利用料の希望
(利用料金がかかるから)



(6)放課後児童クラブ(学童保育)を何年生まで利用したいか

放課後児童クラブを何年生まで利用させたいか尋ねたところ、「４年生」が約３割、「６年生」と「３年生」が２割半ばとなっている。高学年まで利用したいという声が大半を占めている。

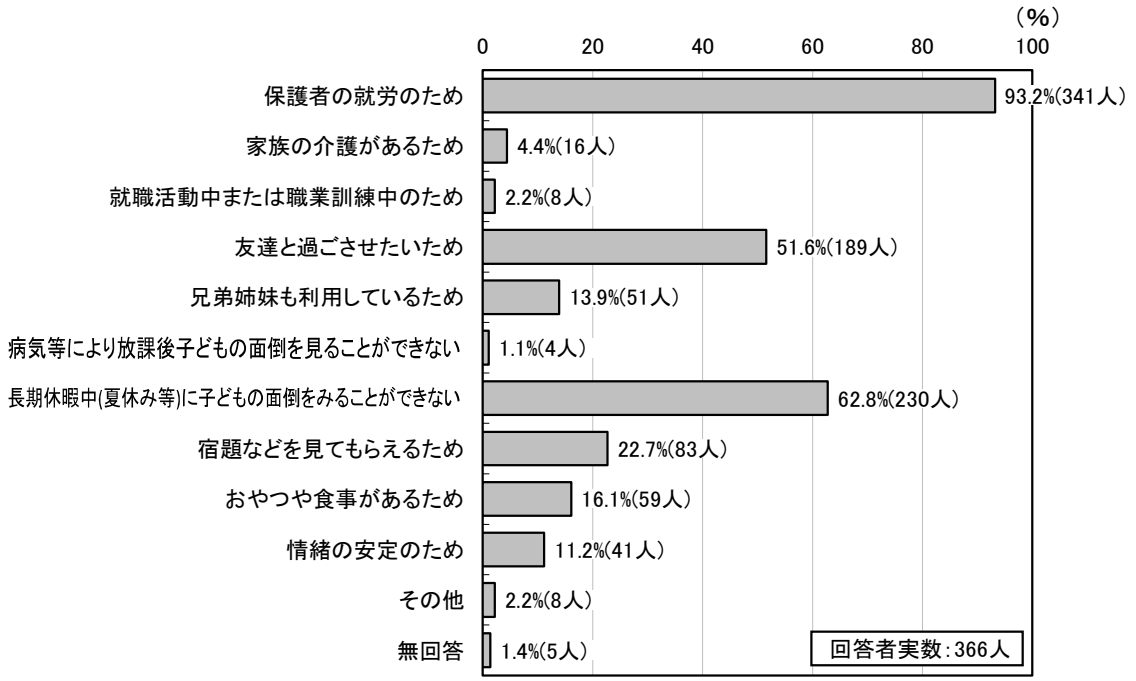
放課後児童クラブ(学童保育)を
何年生まで利用したいか



(7)学童クラブの利用を希望する理由

学童クラブを利用希望する理由については、「保護者の就労のため」が９割余りで最も高いほか、「長期休暇中(夏休み等)に子どもの面倒をみることができない」が６割余り、「友達と過ごさせたいため」が５割程度で高くなっている。

学童クラブの利用を希望する理由

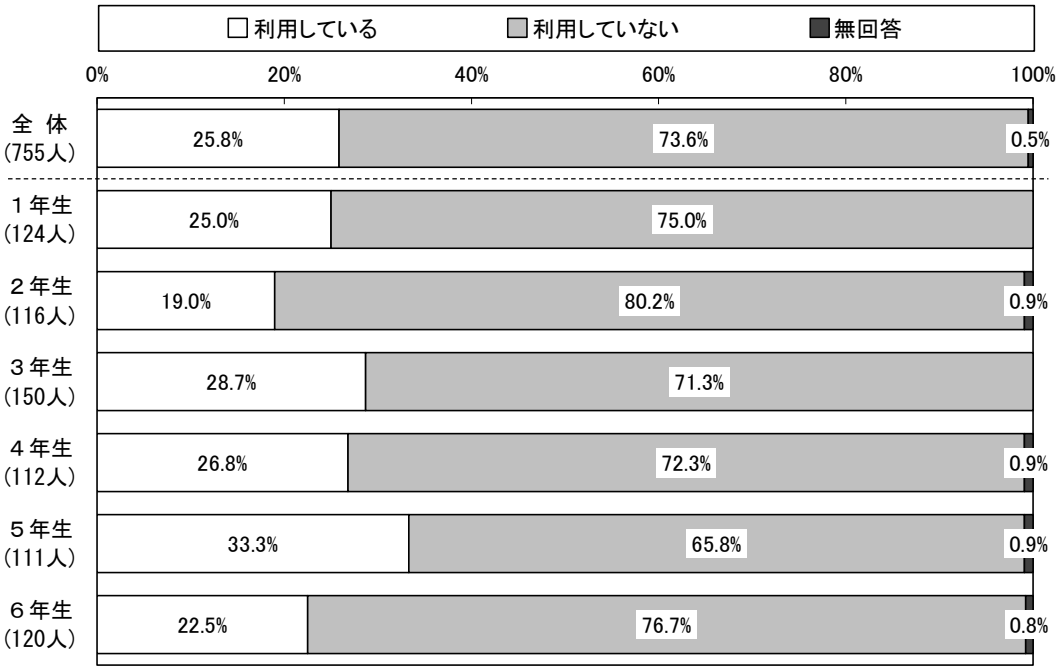


６　児童館の利用について

(1)児童館の利用状況

児童館の利用は 25.8%であり、５年生の利用率が３割台となっている。

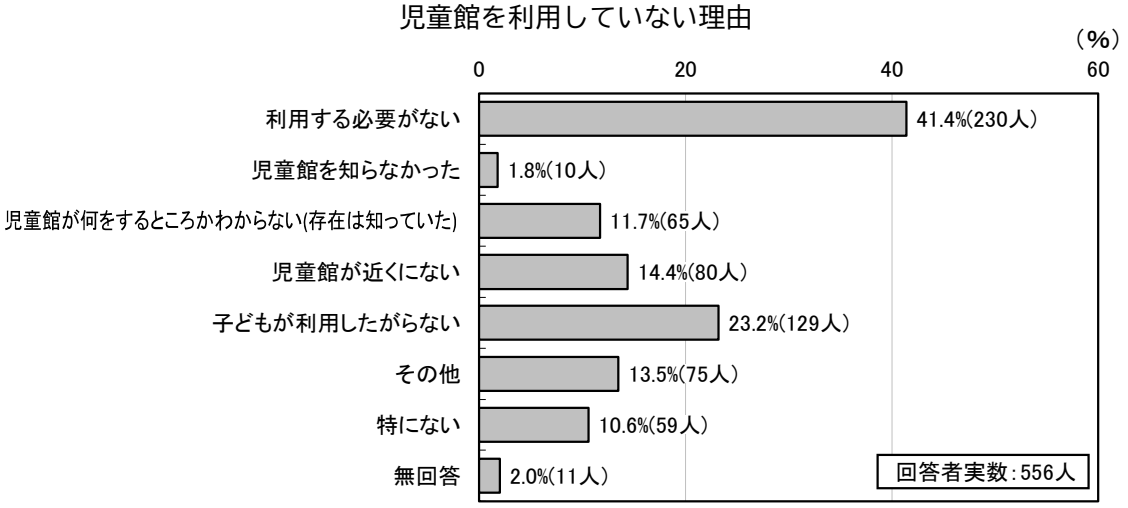
全体・子どもの学年別　児童館の利用状況



(2)児童館を利用していない理由

児童館を利用していない理由では、「利用する必要がないから」が４割を占めるほか、「子どもが利用したがらない」が２割余り、「児童館が近くないから」が 14.4%となっている。

児童館を利用していない理由



小学校区別に利用していない理由をみると、「児童館が近くにないから」は、翔南小学校区が３割余りで、他の小学校区よりも高くなっている。

小学校区別　児童館を利用していない理由

	回答者実数	利用する必要がない	児童館を知らなかった	児童館が何をするところかわからない	児童館が近くにない	子どもが利用したがらない	その他	特にない	無回答
南風原小学校区	145 人	40.7% (59 人)	2.1% (3 人)	8.3% (12 人)	11.0% (16 人)	24.1% (35 人)	15.9% (23 人)	13.1% (19 人)	1.4% (2 人)
津嘉山小学校区	161 人	45.3% (73 人)	1.2% (2 人)	13.0% (21 人)	3.1% (5 人)	23.6% (38 人)	16.1% (26 人)	11.8% (19 人)	0.6% (1 人)
北丘小学校区	154 人	40.3% (62 人)	2.6% (4 人)	11.7% (18 人)	19.5% (30 人)	22.7% (35 人)	12.3% (19 人)	7.8% (12 人)	3.2% (5 人)
翔南小学校区	86 人	36.0% (31 人)	0.0% (0 人)	12.8% (11 人)	32.6% (28 人)	22.1% (19 人)	8.1% (7 人)	10.5% (9 人)	3.5% (3 人)

■　自由回答

1　自由回答のまとめ

（１）就学前児童保護者調査結果より

自由回答への記入から、全体的な傾向をまとめた。

No.	意見　記述カテゴリ	676 件	No.	意見　記述カテゴリ	
1	経済的負担の軽減	85 件	21	相談・講座	7 件
2	保育サービスの利用	44 件	22	手続き	7 件
3	遊び場	44 件	23	図書館	6 件
4	公立幼稚園	38 件	24	習い事	6 件
5	仕事と子育ての両立	34 件	25	5 歳児保育	6 件
6	土曜日の保育	31 件	26	医療機関	5 件
7	人材確保・質の向上	30 件	27	イベント	5 件
8	子育て支援	28 件	28	居場所	4 件
9	母子保健	25 件	29	父親の育児参加	4 件
10	待機児童対策	22 件	30	休日保育	3 件
11	病児保育	20 件	31	児童館	3 件
12	保育現場	19 件	32	交流機会	3 件
13	情報提供	19 件	33	夜間保育	2 件
14	学童クラブ	19 件	34	ひとり親支援	2 件
15	行政	15 件	35	アンケート	2 件
16	一時預かり	14 件	36	教育	2 件
17	道路・交通	14 件	37	体験機会	1 件
18	発達支援・障がい児	11 件	38	ファミサポ	1 件
19	認定こども園	11 件	39	延長保育	1 件
20	給食	10 件	40	その他	73 件

（２）主な記述内容（就学前児童保護者）

★経済的負担

（0 歳児から 2 歳児の保育料が高い、多子世帯への経済的支援、非課税世帯以外への支援、給食費の無償化、現物給付などの支援（おむつ、ミルクなど）、制服や学校にかかる費用軽減、産休・育休の手当の充実、児童手当の増額、病児保育利用料の値下げ　など）

★保育サービスの利用

（兄弟児は同じ園にしてほしい、育休明けなど年度途中での入所が困難、希望するタイミングで希望する園に入りたい、育休中に兄弟児の保育時間が保育短時間になることの不満、0 歳から入園しないと保育園に入れない、親の就労に関係なく保育園を利用できるようにしてほしい、保育所の利用決定通知が遅い、母親が仕事をしていなくても預けられるようにしてほしい（数時間だけでも）、育休中でも標準時間保育にしてほしい、入所申し込みの電子化、日曜日の保育希望、７時から預けたい、など）

★遊び場

（公園の増加、広々とした公園が欲しい、雨天時に遊べる場所、日陰がある公園、自然とふれあえる場所、公園の駐車場充実、室内で遊べるアスレチック施設、公園のトイレが汚い、遊具の充実、幼児向けの遊具の充実、安全な公園　など）

★公立幼稚園

（預かり保育の時間が短い、３年保育の実施、週１回の「お弁当の日」への不満、長期休暇中の毎日お弁当への不満、夏休みも給食にしてほしい、制服の購入負担（登園時のみの着用の必要性）、遊具の修繕、認定こども園への移行希望、行事を土日にしてほしい、土曜日を預けやすいようにしてほしい　など）

★仕事と子育ての両立

（産休・育休制度の充実、男性の育児休業が取得しやすい環境が必要、育児休業給付金の充実、家事・育児で母親の方が負担大きい、短時間勤務しやすい職場環境が必要、仕事と子育てについて職場の理解向上、こどもが病気の時に休みやすくしてほしい、仕事中心で家事・育児を二の次にしなくてはならない職場への不満　など）

★土曜日の預かり

（土曜日預けにくい雰囲気がある、「土曜日預けるなら平日に１日休ませてください」と言われる、理由や勤務証明書などを提出させる、土曜日保育は有料にして平日保育と差別化してほしい　など）

★人材確保・質の向上

（保育士の確保が必要、保育士不足で延長保育や一時預かりができないと困る、保育士の待遇をよくする、保育士が余裕を持って働ける環境が必要、保育士

養成のサポート、保育士の負担を減らす、保育士へのサポート体制の強化　など）

★地域子育て支援

（家事援助のサービスがあったらよい、一時預かりの充実、地域子育て支援センターの充実（増やしてほしい、閉鎖したセンターの再開希望、ちむぐくる館にほしい、情報がない　など）、親の就労に関わらず預けられる園がほしいなど）

★母子保健

（産後ケアの充実（だれでも利用できるように、宿泊型の産後ケアの希望、産後ケアは良かった、産後の１年間程度の定期訪問希望、産後ケアの回数増加）、出産後の訪問はあったがその後のフォローがない、健診が混雑していてちゃんと診てくれているか不安、予防接種の充実　など）

★待機児童

（待機児童の解消、待機児童になってつらかった、保育園に入れないから働けなくて困る、仕事を辞めなければならなかった、保育園が少ない、年度途中の保育申込みへの不満、など）

★病児保育

（病児保育の施設が少ない、病児保育の枠を増やしてほしい、診察してからの預かりなので仕事に行くのが遅くなる（午後など）、利用料金の負担感　など）

（３）小学生保護者調査結果より

自由回答への記入から、全体的な傾向をまとめた。

No.	意見　記述カテゴリ	333 件	No.	意見　記述カテゴリ	
1	経済的負担の軽減	65 件	22	人材確保・質の向上・支援	3 件
2	道路・交通	30 件	23	ひとり親家庭の支援	2 件
3	遊び場	27 件	24	公立幼稚園	2 件
4	学童クラブの受け入れ	18 件	25	施設	2 件
5	居場所	17 件	26	就学援助	2 件
6	学童クラブ	15 件	27	習い事	2 件
7	児童館	15 件	28	相談	2 件
8	学童クラブの利用料	11 件	29	地域	2 件
9	学校	11 件	30	医療機関	2 件
10	教育	8 件	31	子育て支援	2 件
11	給食	7 件	32	母子保健	2 件
12	保育サービス	6 件	33	イベント	2 件
13	学校施設	5 件	34	学習支援	2 件
14	図書館	4 件	35	困難を抱えるこどもの支援	2 件
15	病児保育	4 件	36	行政	1 件
16	体験機会	4 件	37	クラブ活動	1 件
17	情報提供	4 件	38	土日の預かり	1 件
18	仕事と子育ての両立	4 件	39	発達支援・障がい児	1 件
19	地域の安全	4 件	40	父親の育児参加	1 件
20	アンケート	3 件	41	その他	34 件
21	手続き	3 件			

（４）主な記述内容（小学生保護者）

・経済的負担の軽減

（算数セットなど学校で使うものは備品にしてほしい、給食費の無償化、学用品に係る費用が多い、非課税世帯以外への支援、こども医療費無償化は助かっている、経済的に習い事をさせてあげられない、子育てに係る費用の負担軽減、小学生の兄弟児のいる世帯の保育料無償化、　など）

★道路・交通

（歩道が狭い、歩道がない、通学路の安全確保、スクールバスで安全に登下校させたい、街灯がなくて危険、通学路の草刈りが必要　など）

★遊び場（意見が特に多い）

（気軽に行ける公園がほしい、自宅近くに公園がない、ボール遊びできる公園が欲しい、雨が降った時に遊べる場所、公園の草刈りが必要　など）

★学童クラブの受け入れ

（学童クラブの増加、1 年生優先で受け入れてほしい、学童に入れず困っている、年度途中から入れなかった、希望者全員が入れるようにしてほしい）

★居場所

（長期休みの時の居場所がほしい、放課後の学校が居場所になってほしい、学童をやめた後の高学年の居場所がほしい、勉強などできる場所が欲しい、回数で利用できる学童や居場所が必要　など）

★学童クラブ

（様々な体験ができる場であってほしい、習い事をしていると学童を退所しなくてはならない、学校敷地内に学童があってほしい、長期休暇中だけ学童を利用したい、ほしい、望者全員が入れるようにしてほしい）

★児童館

（昼休みをなくしてほしい、土曜日の開館希望、開館時間を早めてほしい（7 時半、8 時）、児童館が遠い、もっと利用したくなるようなイベントがあってほしい、安全面から駐車場整備してほしい　など）

★学童クラブの利用料

（学童の利用料が高い、兄弟児がいる場合の利用料負担が大きい　など）

★学校

（算数セットなど、学校の備品にしてほしい、学校を早めに開けてほしい　など）

★教育

（宿題対応に時間がかかり共働きには負担である、教科担当制、放課後に校長先生や教科担当の特別授業で知識を増やすようにしてほしい　など）

★給食

（品数が少ない、食の安全性に力を入れて欲しい　など）